

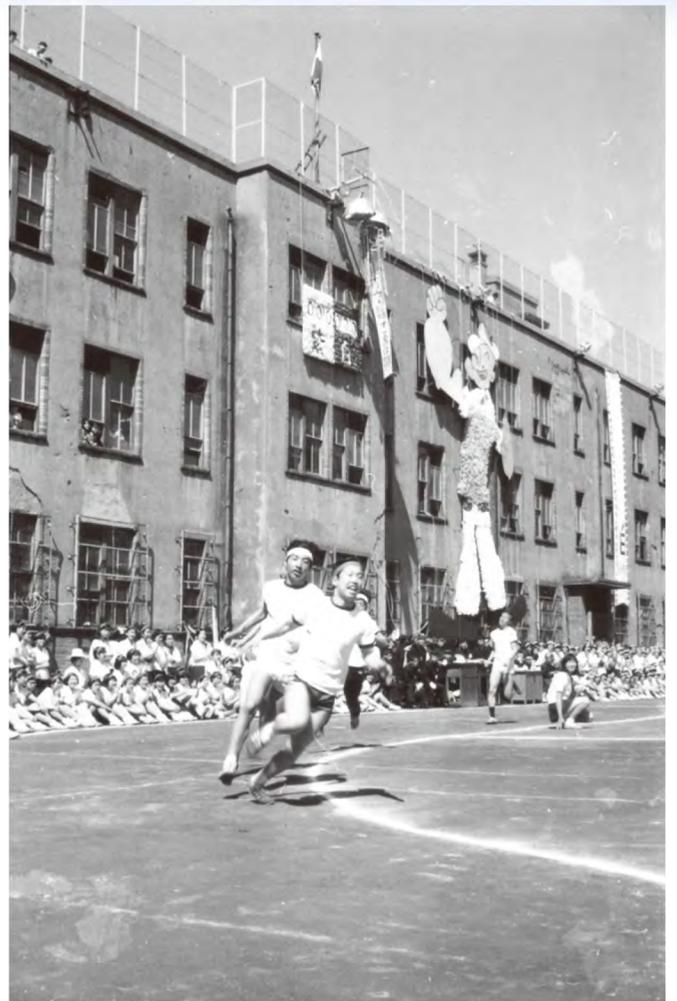


# 会報

2013 No.24

東京府立第二高等女学校同窓会

東京都立竹早高等学校同窓会



## 特集

### 竹早の若き後輩へのメッセージ

—— 還暦の23回生より ——

<p>           箏会總會のご案内 ..... 1            講演会のご案内 ..... 1            箏会会長挨拶 ..... 2            竹早高校校長挨拶 ..... 2            第5回箏会特別セミナー報告 ..... 10～15            箏会「Web同窓会システム」 ..... 16            学校の活動報告 ..... 17            在校生の活躍紹介 ..... 18         </p>	<p>           なつかしの先生、竹早エコー ..... 19～22            清里高原 竹早山荘から ..... 23            平成24年度「箏会總會・懇親会」報告 ..... 24            箏情報館 お休み処たかむら ..... 25            箏会教育基金「箏」回覧板 ..... 26            第6回箏寿会開催 ..... 27            関西箏会だより、湘南箏会だより ..... 28            理事会報告 ..... 29～30         </p>
---	--

# 平成 25 年度 箎会総会のご案内

今年は箎会が発足して  
113年にあたります。  
皆様ふるってご参加く  
ださい。

会費 **8,000円**

平成22年～25年卒は2,000円

日時  
2013年6月16日(日)

受付開始 10:30  
総 会 11:00～11:40  
講 演 会 11:45～12:30  
懇 親 会 12:40～14:50

ご出席の方は、同封のハガキで5月24日(金)までにお申し  
込みください。

会費は、5月24日(金)までに同封の郵便局の払込取扱票  
でお振り込みください。

会場 **東京プリンスホテル(マグノリアホール・2F)**

東京都港区芝公園 3-3-1

TEL.03-3432-1111

## 交通のご案内

電車で

- ◆JR線・東京モノレール 浜松町駅から徒歩10分。
- ◆都営地下鉄三田線 御成門駅(A1)から徒歩1分。
- ◆都営浅草線大江戸線 大門駅(A6)から徒歩7分。
- ◆都営地下鉄大江戸線 赤羽橋駅から徒歩7分。
- ◆地下鉄日比谷線 神谷町駅(3番)から徒歩10分。

お車で

- ◆東京駅から10分(平常時)。
- ◆羽田空港から首都高速道路芝公園ランプ経由15分(平常時)。
- ◆東京シティエターミナル(箱崎)から15分(平常時)。

## <今回幹事>

高校23回生：昭和46年卒

## <次回幹事>

高校24回生：昭和47年卒

## <総会・懇親会のお問い合わせ先>

水田 茂夫 高校23回生(箎71回生)

TEL.090-7405-2400



## 講演会のご案内

## 「国民の司法参加」 — 裁判員制度を中心に —



講師  
保坂 洋彦氏

### 【講演概要】

国民の司法参加ということで司法制度改革が行われ、平成21年5月からは刑事裁判における裁判員裁判が始まりました。国民の皆様は、なじみの薄い刑事裁判に参加してもらい、裁判官と一緒に、有罪無罪、あるいは刑の重さを考え、決定するという極めてとっつきにくい事柄だっただけに、参加したくないと尻込みする人が多かったようですし、今でも参加したくないという人が少なくないのは事実です。しかし、参加した人の多くの感想は、参加して良かったというものでした。制度開始から3年余が経過し、既に法律の内容を見直しすべきかどうかという議論も始まっています。これまでいろいろな事件が報道されていますが、それらの事例を含めて、この裁判員裁判についての功罪を見渡してみようと思っています。

### 【経歴】

昭和46年 竹早高校卒業  
昭和52年 中央大学法学部卒業  
昭和53年 司法試験合格  
昭和54年 司法修習生  
昭和56年 検事任官  
その後、東京・釧路・宇都宮・静岡・福岡の各地方検察庁、東京高等検察庁、最高検察庁、法務省矯正局、外務省、司法研修所、法科大学院等に勤務  
平成21年 鹿児島地方検察庁検事正  
平成22年 札幌高等検察庁次席検事  
平成24年 高松地方検察庁検事正  
同年11月 検事退官  
平成25年 葛飾公証役場公証人

# 「ひまらや杉に新芽萌えて」

松本 紀子 高女 41 回生 昭和 16 年卒（箠 41 回生）

竹早高等学校校歌（昭和 28 年 3 月制定）の作詞者木俣修（きまたおさむ）（明治 39 年～昭和 58 年）は、本名木俣修二、滋賀県彦根市出身の歌人で文学博士。北原白秋に師事し、「木俣修歌集」で芸術選奨文部大臣賞及び紫綬褒章を受け、宮内庁御用掛として、昭和天皇の和歌指導もされた逸材です。

この校歌の冒頭にひまらや杉が記されていることに私は深い意味を感じます。

実は 11 月 13 日、「お誕生日の方、おめでとうございます。今日の花はひまらや杉、花言葉は『あなたのために生きる』です。」というラジオのアナウンサーの声に目覚め、知らなかったので調べてみると、次のような情報がある。

「ひまらや杉はマツ科に分類され、冬の寒さにも強い風にも負けない厳しい自然環境の中で育つ植物で『あなたのために生きる』『尊敬』『たくましさ』といった花言葉がある。」

記念誌『竹早の百年』によれば、創立当初、正面玄関前に松が植えられていたのが、昭和に入る前後にひまらや杉に植え替えられたとのこと。どのような意図があったのかは分かりませんが、やさしくも強い精神（こころ）をもったひまらや杉が、万を超える卒業生を見守ってくれたことには深い感動と愛着を覚えます。

作曲された平井康三郎（明治 43 年～平成 14 年）は、本名平井保喜、高知県出身で文部省教科書編集委員も務め、「詩と音楽の会」を結成、作品は広範囲にわたり、多くの学校の校歌も手がかり、紫綬褒章を受章され、芸術文化賞など数々の栄誉を受けられたとのことですが、私にとって一番印象深い作品は、北見志保子の詩による「平城山」です。短調にのせた激しい恋の思いが女性 3 部で歌うと更なる情感が溢れてきます。

竹早高等学校の校歌は、希望に満ちて明るく、と表示されているように、行進曲風で音域も歌いやすく、歌うと元気が出ます。

去る平成 24 年 3 月 3 日、第 64 回卒業式の最後に校歌の 2 部合唱を聞かせていただき、とても嬉しく、これからも大切に歌い継いでくださることを心から願っています。

府立第二高等女学校校歌（明治 40 年 4 月制定）の作詞者島山健（はたけやまたけし）（安政 5 年～明治 45 年）は、新潟県出身で明治時代の国文学者。著作に「百人一首講義」「万葉集詳解」などがあり、主に万葉集の研究者として知られています。

女学生の頃は、意味も考えずに歌っていた校歌ですが、記念碑に刻むためにあらためてしみじみ読み返してみると、恵まれた環境の女学校で学ぶ私達に女性として生きる指針を示された深い言葉遣い一字一句がよく解り、作詞者が込めた思いに、改めて尊敬の念を深くしました。

作曲者岡野貞一（明治 11 年～昭和 16 年）は、鳥取県出身、東京音楽学校を卒業後に教授となり、日本の音楽教育に多大な功績を残し、今や国民的愛唱歌となっている「ふるさと」の作曲者であることは、周知のことです。教会のオルガン奏者も務め、賛美歌の素養も持った彼の分かりやすいメロディが後世に多くの名曲が生まれたことを感謝しなければなりません。

「みいつかしこき」で始まる校歌ですが、少しキイが高く実際に歌う時には作曲者にお詫びしながら 3 度下げて移調しています。

このように校歌の作詞者・作曲者も歴史に名を遺す一流の方々、当時は十分解らなくても、最高の教育に触れさせていただけたことに感謝を深くします。

以上、校歌についてしたためましたが、いずれもわずかな知識で恐縮です。何か明確な情報をご存知の方がいらっしゃればお知らせください。お待ちしております。



# 「強く生き抜く力」

丹藤 浩 竹早高校校長

思春期の心の問題に関する研修で、「日本では今、11 人に 1 人が精神疾患と試算され、さらにその 75% が 24 歳までに発症していて、若い時期の心のケアが重要」と聞き、驚きました。ストレス、睡眠障害などを起因として、休業明けに不応症症状を起こす生徒は珍しくありません。また、若者の自殺は戦後最悪の状況で、しかも十代の自殺の 6 割以上は、学校でも家庭でもこれといった理由が見当たらないとされています。私たちが教えられたことの中には「親より先には死ぬな、それは一番の親不孝」ということがあったのですが。

東日本大震災で、痛切な喪失体験をした被災地の中・高生が、思慮深く、そして他への感謝に満ちた言動をとる姿に、よく驚かされました。一方で、ルソーの教育論には「子どもを不幸にする一番確実な方法は、いつでも、なんでも手に入れられるようにしてやること」という言葉があります。就職難やリストラなど働く場所さえ得られないのも珍しくなく、努力すれば結果に恵まれるとも言えないのも現実です。挫折や失意に見舞われるのはままあることで、しかしそれでも自分らしく生き抜くことが求められています。挫折や失意も知らないほうが良いのかもしれませんが、しかし、温暖ゆえに成長の早い南の木々が折れやすく、風雪ゆえに成長の遅い北の木々が堅ろうであることは、人間も変わらないように思います。個性や能力の伸長を第一に、大人が先回りをして、辛い思いや失敗をさせないよう努めてきた今までの教育のつけが表れている気がしてなりません。チャレンジングな体験から挫折も失意も含めて学ぶことのできる高校時代でなければと考えています。

本校生の素直な伸びやかさに目を細めつつも、何事にも一段上の目標を掲げ、その達成を目標として挫折や失意を乗り越える体験こそ、今の竹早生には必要な気がしています。狭隘な施設に、不足を嘆きつつさまざまな工夫、努力によって自らを高めた竹早生の歴史に学び、「一人一校を代表す」の気概を持って「挑戦」する生徒たちであってほしいと願っています。

同窓生の皆様には、引き続き母校へのご支援をお願いいたします。



# 竹早の若き後輩へのメッセージ

## — 還暦の 23 回生より —

箠会の皆様、今会報の特集記事を担当する高校23回生（箠71回生）です。私たち23回生は、1968年（昭和43年）に入学し1971年までの3年間を竹早高校で過ごしました。23回生の仲間達を書いた特集記事を披露する上で、この時代や当時の竹早高校の様子を振り返っておきたいと思えます。

1968年～1971年は、国内では高度経済成長が続くなかで、1970年安保闘争に向けて社会が騒然となり、世界では科学技術が輝かしい成果を挙げる一方で、東西冷戦が緊迫を続ける時代でした。1968年に米軍機の九州大学墜落事件やソ連軍チェコ侵攻事件、1969年に東京大学安田講堂の攻防戦やアポロ11号の月面着陸。1970年の大阪万博では「人類の進歩と調和」という万博のテーマに日本人の多くが明るい未来を期待しましたが、同年には三島由紀夫の割腹自殺という痛ましい事件もありました。1971年には都電の16番線が廃止され、私たちは春日二丁目の停留所で通学の都電を乗降した最後の世代になりました。

1968年は、都立高校各校の学力差の平準化と常態化した越境入学の是正を目的として「学校群制度」が導入された2年目です。生徒の多くは、小石川高校への入学を期待して第41群を受験したものの、合格者を竹早高校と小石川高校とに無作為に振り分ける制度によって「まさかの竹早高校」に着地したと

も言えます。先輩の22回生は男子2クラス・女子4クラスの男女別クラスでしたが、私たち23回生は各クラスとも男子19人・女子32～33人の男女混合クラスでした。

私たちは、旧校舎（1年生）、新宿の仮校舎（2年生）、新校舎（3年生）という3校舎で学ぶ珍しい経験をしています。それまで、東京学芸大学附属竹早中学校と共同で使用していたレトロな旧校舎を取り壊して新校舎を建てることになったためです。旧校舎から退去し新校舎に入居するまでの間は、当時使用されていなかった都立新宿高校の旧校舎を仮校舎として利用することになりました。この新宿の7ヶ月間に、高校紛争に伴って全学ストライキやバリケード封鎖があり授業が中断した経緯は、本会報2012年の特集記事として22回生の先輩たちが詳しく紹介しています。

竹早高校で青春時代の光と影を共にした私達も還暦を迎えました。長らく勤めた職場を離れたり、老親を介護したり、家族と別れたりするなど、厳しい現実折り合いをつけなくてはなりません。そんな時、竹早高校の仲間を思い出してください。同じ青春時代を過ごした旧友と語り合えば、生きる勇気が湧いてくることでしょう。

文責 水田茂夫 高校23回生（箠71回生）



### あの日を共有した仲間たち

A組 田島 幸夫

23回生が竹早高校に入学したのは、学校群制度が始まって2年目の1968年である。生徒たちの多く（特に男子）は小石川に入学を希望しており、確率からもまさかという気持ちで竹早に入学することになったはずであるが、この不運に対するぶつけようのない憤懣とともに、旧制府立第二高等女学校以来の古風で堅苦しい校風を色濃く残す竹早に対する違和感と、自由な小石川というイメージを強く感じた入学当初であった。

こうしてスタートした高校生活であったが、優秀な人がなんと多いことかと大いにカルチュアショックを受けながら、古風な竹早高校にも次第に慣れていった。友人もで

き、この高校生活も満更ではないという気になり、楽しさも見出せた1年間であった。今でも1年生のクラスメイトとは交友がしっかりと継続しており、このまま一生の友になるであろうと思っている。1学年は高校生活の中で最も楽しく平和な1年間であった。

2年目はいろいろなことがあった激動の1年間であった。4月に発覚した教職員のリベート問題で生徒側に大きな不信感が芽生え、議論を重ねた結果、生徒会総会で6月5日に学校運営に生徒の自主性を盛り込んだ生徒権宣言を採択した。7月には新宿高校に移転。老朽校舎と紛争がセットになって記憶されている。10月には試験制度をめぐって無期限スト、ロックアウトなどがあったが、授業が再開

されたのは11月24日のことであった。

新宿高校旧校舎は解体間近の老朽校舎で、冬はストーブをいくら燃やしても寒さがしのげない。結局授業中もコートを着たままでよいということになった。また、新宿高校は新宿御苑と隣接し塀で仕切られていたが、破れた箇所があり、よくみんなで遠慮なく入らせていただいた。雪が降った翌朝、雪合戦をしようといつものとおりに入った時の、踏み跡の全くない純白で静寂な御苑の美しさが記憶に残る。

もう一つ心に残るのは竹早山荘(当時は八ヶ岳寮)での林間学校である。清里駅の酒屋でこっそり買ってきたものを階上の級友に投げ上げたあの山荘周りは、今訪れてみると鬱蒼とした森林で想像もできないが、四十数年前の当時

は、周辺が疎林でさわやかな風が吹き抜ける高原の山荘であった。

しかしなんとといっても、私にとって思い出深いのは、素敵なガールフレンドと出会えたことである。青春時代の1シーンとして今も深く胸に刻まれている。

60歳を迎えた私にとって、竹早高校とはなんだったのであろうか。学校群制度に振り回された不満の残ったスタート、学園紛争と授業のなかった受験ハンディなどの苦い思い出とその中で友人たちとの交流、こんな激動の高校生活を送った高校生はそうはいない。

つらかったけれども学園紛争を経験したこと、クラスメイトに山下達郎がいたこと、それにもまして大事な一生の友人ができたこと。今、竹早高校は、私の誇りである。



## 空白の通信簿

B組 福岡 寛

我々が入学した1968年は、学校群制度の2年目です。私も小石川高校を希望していたのですが結果的に竹早高校に振り分けられ、正直がっかりしたのですが、入学して驚いたことは、女子の数が多くこと！ 教室の中も女子の海の中に男子の島がぼつぼつという……まるで男子は瀬戸内海に浮かぶ小島のような印象を受けました。(今までの長い学校、会社生活の中で最初で最後の体験でしょう)男子トイレの数も女子に比べ少なかったような……教室は東京学芸大学附属竹早中学校と共有していたので、移動が多かったように思います。その中でも「天国」と名づけられた教室で授業を受けたことをよく覚えています。屋上の上に作られたバラック小屋のような教室で、よく雨漏りしていました。夏には八ヶ岳の寮で合宿したり、徐々に楽しさも増し、入学当時の不安はかき消されていきました。

そして、高校2年目を迎え、クラス替えがあり、新たな気持ちでスタートといったところでしたが、まさかその後波乱万丈の高校生活を送るとは夢にも思いませんでした。校舎を建て直すために新宿高校の旧校舎を借用することになり、初めての電車通学でワクワクしながら通ったものです。新宿御苑で課外活動を行ったり、繁華街も近く何かと刺激が強かったですが、清く正しい高校生活を過ごしてははずです。その生活が一変したのが2学期から。当時は東大安田講堂事件に代表されるように学生運動華やかなりし頃で、高校(特に東京地区)にも波及していき、わが竹早高校でも高校紛争へと突入しました。

バリケードストライキ、全学集会などを通じ、教師と生徒の関係はどうあるべきか? 高校生活のあるべき姿は? 授業科目の抜本的見直し等、皆で真剣に議論し、「生徒権宣言」に纏め上げました。教師とも本音で話し合い、その後の関係改善につながったように思います。私も議論に参加し、随分意見も言いましたが、全学生を引っ張ってくれた長澤均君(故人)はじめ執行部の人達に比べると真剣度合いが足

りなかったかなと思います。時々、息抜きに放送室の天井裏にある隠れ部屋(梯子を使って入る)で、ゲーム(花札、トランプ等)にいそしんだり、馬鹿話に花を咲かせていました(下には見張り役(?)をつけて)。そして、3学期から新たな高校生活がスタート。服装の自由化、カリキュラムの選択等、生徒が主体的に活動できる環境が整ったように思います(ミニ大学化と言えるかもしれません)。その中でも服装は各人の個性が滲み出て(特に女子)、見ていて楽しかった(?)です。いずれにせよ高校2年2学期の「空白の通信簿」……高校紛争の象徴でもあり、二度と忘れることはないでしょう。

高校3年は、ひたすら受験勉強にいそしんでいました。高校2年の約半年のブランクは大きく、急速に知識を頭に詰め込んだので一時期パニックに陥ったような記憶があります(夏休みは昼、夜が逆転しました)。そして、竹早高校を無事卒業。

今こうして高校生活を振り返ってみると、高校紛争を通じて、主体的に全員一丸となって改革を遂行した経験はその後の会社人生にも十分活かしていると思います。主体性、チームワーク、新事業の立案と実行、事業構造改革等々。私は今、仕事の関係で九州(福岡)に赴任しています。あと何年会社生活を送ることになるかわかりませんが、激動の高校3年間の思い出を胸に抱いて、日々精進して参りたいと思います。



## カリフォルニア農業最前線より

C組 中川（八村）圭子



2012年11月3日、竹早卒業以来、初めて、学年会に出席する機会を得た。この日に還暦学年会が計画されていたことは訪日の直前までまったく知らなかったのだが、たまたま10月末から2週間ほど日本滞在の予定となっていたという偶然が、青春の一時期を共有した旧友との再会を実現させてくれた。

18歳の面影を残す60歳の笑顔と歓談する中で、42年という年月が俄に巻き戻され、薄暗い旧校舎のたたずまい、正門前のパン屋さんといった記憶の断片が、うず潮のごとく私の脳裏を駆け巡った。訳のわからぬ論理をしゃべりまくるオメガ（金子先生）の講義にショックを受けた1年F組時代、全学集会を抜け出してナポレオン（トランプのゲーム）にうつつを抜かしていた2年C組時代、1年間の空白にハタと気付き、受験モードに単身突入した3年C組時代。そんな竹早での3年間は、重苦しい暗雲に包み込まれた無為の日々以外の何ものでもなかった、と長年信じ込んでいた。「小石川に行っていたなら...」何回思ったことか。

この竹早時代が実は、その後の私の人生に決定的な影響をもたらしていたことに気付いたのは、ごく最近になってからである。東京で農業の「の」の字も知らずに育った私がアメリカで農場経営の片棒をかつくなどという、まったく予定外の航路を選択するに至った決断の原点は、竹早での地理の授業にまで遡ることができるのだ。土屋先生のご指導が、元来、野外探索が好きな体質であった私の地理への興味を触発し、ここで芽生え

た興味がお茶の水女子大学、さらにカリフォルニア州立大学フレズノ校大学院での地理学専攻へと導いた。そしてフレズノ校で農業地理に傾倒し、修士論文執筆中に知り合って結婚した相手が日系三世の果樹園経営者であったことで、カリフォルニア農業の最前線に送り込まれる運命となった。

結婚当時に経営していた果樹園は20年ほど前に売却し、現在シエラネバダ山脈の山麓で、和牛交雑種の繁殖牧場経営に奔走している。自然と生き物が相手なので、週末も祝日も無関係。真夜中に叩き起こされることもしばしばだ。日本の農業関連組織から委託される調査事業や通訳の副業も続けているので、まさに年中無休と言ってよい。でも私は、この自然のリズムとともに生きる晴耕雨読の生活、そしてカリフォルニアの大自然を舞台に繰り広げられる農業という偉大なビジネスがたまらなく好きなのだ。

山のとっぺんで雲を見下ろしながら原稿の草案をつくり、体重800kgの種牛に予防注射を打ち、馬に乗って走り回っていると云ったら、あきれ果てる？それが今の私の生活。来年は、しばらく休止していたピアノに再挑戦する予定。元東京都知事のどなたかのごとく「暴走老人」コースを邁進しているらしい私の精神構造も、ひょっとすると、重苦しさから抜け出ようと必死にあがいていたあの竹早時代に培われたものなのかもしれない。

今後の状況は、<http://www.nakagawaranches.com> をご笑覧されたし。



## ムゲン

C組 中井 紀夫

高校時代はSFに夢中だった。入学してすぐ、学内にSF研究会をつくらうと志し、何人かの先生に相談するなど動きまわった。が、応援を得られず、計画は頓挫した。ならば、ひとりで勝手にやるかと思い、ガリ版刷りの小さな雑誌をつくった。「ムゲン」と名づけた。無限でもあり、夢幻でもあり、場合によると無間地獄でもあるというつもりだった。B6版十数ページ。できあがると、級友に一冊何十円かで売りつけた。

鞆のなかにはいつもSFの本が入っていた。小松左京や筒井康隆のおもしろいものを見つけると、周囲のだれそれ「読め」と言って押しつける。いっしょにおもしろがってくれるのがいると、うれしかった。そんな仲間の中から、自分でも作品を書くやつが現れた。原稿用紙に書いたのを持ってきて、「載せろ」と言う。祁答院六平太とか青丹吉雄とか妙なペンネームの作品が「ムゲン」に載るようになった。誌面はにぎやかになり、悪乗

りして級友の恋愛沙汰を楽屋落ち的に茶化した話を書いて遊んだりした。ガリ切りや印刷製本を手伝ってもらったりもした。おかげで在学中に十何号かまで出すことができた。

学外のSF仲間とも交流があった。いくつかの高校生SFファンサークルと交流したなかに、新宿高校のグループがあった。ちょうど竹早が新宿高校旧校舎で間借り授業をしていたころである。何かの集まりで顔を合わせ、「なんだ、すぐ隣にいるんじゃないか」となって、放課後、竹早の方へ遊びに来てくれて、同人誌の交換などをした。そのすぐあとぐらいのことと記憶している。ある朝、登校すると、新宿高校との境界に高い塀が出現していた。許可なく他校と往来するなどのお達しであった。学内紛争とのからみもあったらと思う。学校は生徒を教育するより管理することに熱心なのだと思い、ひどく悲しい思いがした。

それよりさらにもうすこしあとだろうか。級友が音楽

の雑誌をつくりたいのだが、と言ってきた。音楽批評を載せる雑誌だが、それだけでは物足りないので、小説を寄稿してくれないかという話だった。「ムゲン」を見てくれたのだなと思い、よろこんで一本書いた。雑誌ができあがると、「ムゲン」と似た体裁で、ずっとおしゃれできれいな雑誌に仕上がっていた。その音楽雑誌の主宰者が、山下達郎君だった。

「ムゲン」を通じての交流は大切なものだったのだなと、最近あらためて思ったりする。学年同窓会の折に、古びたガリ版雑誌をわざわざ探して持ってきてくれる人がいて、びっくりしたといったこともあった。後年、私は小説を書くようになり、二十数冊のSFやホラーを上梓し、一定の評価をいただいたが、十分多くの読者を得るには至らず、いまは飯田橋で酒場を営んでいる。その酒場へ当時の仲間が集まってきて、愉快なときを過

ごすこともある。ひとりで勝手につくった小さな同人誌だったけれど、何人かの人の心のなかに多少の思い出をつけくわえることができたのかもしれない。



## イラク、サラエボ、語り継ぐ悲劇

D組 二藤部 義人

高校1年の時に同じクラスで、教室の机をたたいてドラムのスティック捌きを教えてくれた歌手の山下達郎君が珍しくインタビューに答え、しかも周囲には「悪夢」と言っているという高校時代を振り返っていたので面白く読んだ。その部分を紹介すると、

「音楽家としての原点は？」という問いに対して「高校をドロップアウトしかけたトラウマが大きかった。70年安保で学生運動が盛り上がっていく前夜に、高校生活を送りました。超保守的な進学校で、ロン毛の生徒はみんな潰されちゃった。教員の不祥事もあって、全学ストやバリケード、一通り全部やった。勉強についていけなくなって、音楽に逃げました。追い出されるように卒業したけれど、いまだに高校を出られない夢を見る。もう3年早く、あるいは3年遅く生まれていても、ミュージシャンには絶対なっていなかったと思います。」

(2012年10月6日付「朝日新聞土曜日」より)

その通りに高校時代は激動の3年間だった。学内紛争によるバリケード封鎖、長期間の授業中止、新校舎建設で毎年高校の場所が変わるなどという劇的な外形変化だけでなく、入学時は男性教師が校門の外に立ち、厳しく制服をチェックしていたのに、卒業時は私服に変わり、嫌な授業は集団でさぼり残った級友が代返をしても何も怒られることはないほど校内の空気は激変した。それに連れて私たち生徒は、大人たちの社会への見方、権威や制度への考え方など心の中も大きく変化していった。

山下君は高校時代を否定的にとらえているが、私にとっては「崩壊しない権力はない」「偉そうに威張る人物は要注意。まず疑え」「外形よりも内容が肝要」「自分のことは人任せにせず自分で考え、その責任は自分で負う」などの基

本的な人生観は、このときにでき上がったのだと思う。

私は大学卒業後にジャーナリズムの世界に入った。共同通信社で地方の「トロッコ記者」(記者=汽車に達しない未熟者)を経て、外信部に異動。イラン・イラク戦争の最後の年となった1988年の1年間をテヘラン特派員として過ごした。この年のテヘランは1ヶ月半にわたり、イラク軍による約140発のソ連製ミサイル・スカッドB攻撃を受けた。イラク軍が化学兵器で攻撃し、1万人が死傷した国境地帯のクルド人居住区ハラブジャで防毒マスクを持たされてイラン軍に同行して取材もした。

「道ばたに放置されたこどもの遺体。恨めしそうな顔は真っ黒に変色、鼻をつく死臭。砲声の中、遺体の山に消毒液をまく兵士・・・」。私のルポ記事はこう始まっている。

ロンドン特派員時代は、今度はイラクの首都バグダッドで米軍による巡航ミサイル・トマホークの攻撃を体験した。無政府状態のソマリアでは武装兵士を雇って飢えに苦しむ難民を取材した。独立をめぐる戦闘が続いたボスニア・ヘルツェゴビナの首都サラエボでは、セルビア人武装勢力が狙うスナイパー街道とは知らずに真夜中の雪道を歩いた。バンコク特派員時代はインドネシアからの独立をめぐる戦闘が続く東ティモールで、避難民から食料を分けてもらう、それこそ「難民記者」も体験した。

戦争、内戦、大災害など予想もしないことがどこでも起こりうる現代世界へ一歩踏み入れたのは、竹早時代からなのかもしれない。大爆音のミサイル攻撃、銃声、大量の遺体などに遭遇した私に気がかりなのは、今の政治家たちが簡単に核武装とか、中国や韓国に対して強硬外交を主張していることだ。今も続く世界各地の悲劇とともに、日本人だけで300万人以上が亡くなられた太平洋戦争の悲劇を語り継ぐ義務があるのだと痛感している。



## 無意味に意味あり

D組 木島 明博

久しぶりに竹早高校時代を振り返ってみた。たった3年間なのに様々なことが思い出される。無意味な3年間、無駄な3年間と思っていたのに、妙に懐かしく、想い出が湧き上がってくる。

入学後間もなくのことである。第1回目の実力試験が開催された。その結果が公表される。確か上位50番までが掲示された。もちろん僕はそこにはいない。なんと236番の成績。T君、M君、Kさんの名前が浮かぶ。頭のいい奴がいるものだと感心した。2回目の試験である。今度は86番に躍進。あまりにも躍進したのだから担任の先生に呼び出され、どんな勉強をしたのか不思議だと言われた(カンニングを疑われたのかもしれない)。それ以降、試験結果の順位発表はなくなった。

晩熟(おくて)の自分は中学まで胸をときめかす恋をしたことがない。高校1年生の5月にときめいた。残念ながら相手は竹早高校生ではない。中学時代の同級生である。僕は都電通学。大塚三丁目の停留所で乗り換える。相手も都電通学。彼女は江戸川橋から乗ってくる。ある日、彼女が後ろのドア付近に乗っていることに気が付いた。窓越しにたたく彼女を見た瞬間、これまでにない高鳴りが僕を襲った。その時はとても後ろのドアから乗ることができず、一番前に乗車した。相手は上富士前停留所で降りた。その姿を目で追いかけている自分を覚えている。どのくらいの日にちが経ったか定かでない。数日後だったと思う。一大決心をして後部ドアから乗り込んで、何気ない調子で声をかけた。やあ。声も表情も硬くなっていかもしい。僕も上富士前停留所で降りた。話すこともなくただただ歩く。どうしたのかと聞かれ、ついに告白をした。相手が言う。「私も好き。・・・でももっと好きな人がいるの。」・・・見事な答え方だ。敢え無く失恋。ここから恋の味を覚えてしまう。それから恋多き高校時代になってしまった。すべて失恋に終わったが、今思えば一途な想いで多くの人に迷惑をかけてしまったのかもしれない。Kさん、Iさん、・・・みなさん、ごめんなさい。

文化祭。クラスで何かをやろうと話し合う。経緯も内容も覚えていないが男子と女子の意見が対立し、クラスを二分することになった。「二分!」といっても半分ではない。結局男女の人数比(19:32)で教室面積を分割することになった。この議論を通して多数となった時の女性の怖さと民主主義における少数意見尊重の重要性をいやというほど学習した。

高校紛争の真ただ中、倫理社会の試験をボイコットした時のことである。先生と話し合い、ペーパーテストは行わないことになった。しかし、試験当日、実施することになったと記憶する。学校に行くとざわめいていた。「ボイコ

ットだ、ボイコットだ」との声も聞かれた。試験は実施、蓋を開けたら白紙で出したのは僕一人。人間の弱さを知った。人間不信に陥った。修学旅行にも参加せず、一人で北へ旅に出た。ヒッチハイクで旅をする。東北地方を北上し、北海道南部に達した。八戸での出来事である。大型トラックが僕を乗せてくれた。短髪の怖そうなお兄さんである。八戸弁であろうか、言っていることが半分もわからない。しかしどことなく優しさを感じる。どうやら泊るところがなければ自分の家に来いと言っているらしい。自分は若いころ悪さばかりしてきたという。腹巻をまくり上げて刺し傷の痕を見せてくれる。新婚らしい。その人が見ず知らずの僕を家に泊めようとしている。この優しさ、人に対する無防備な姿、心の温かさを感じた。東北地方にほれ込んだ。

東北地方にほれ込んだ僕は東北大学を志望した。3年生当時、11月に行われた○文社の試験で合格可能性が5%未満と判定されていた。そこから猛勉強。12月、1月、2月は夜に日を継いで受験勉強をした。それまで徳永先生に数学の難問を出していただいたり、好きな生物学は趣味的に勉強していたが、受験を意識した勉強はしていなかった。しかしそれがベースとなり、知識が体系づけられていく実感がわいた。ただ、古文と漢文は最後まで好きになれなかった。3月2日、6時間かけて仙台に行く。3日、4日、5日と大雪の中での受験。そして僕の18歳の誕生日である3月6日に東京に戻った。数学の試験でベクトルが出てしまい、それを解析学的に変換して解いてしまっていた。帰路に着いた時には諦めていた。住み込みの朝日新聞配達員の求人広告が目につき、浪人をして家を出て独立しようと考えていた。ところが合格の知らせが届いた。東北大学に行ったのは当時僕1人ではなかったかと思う。

この話には後日談がある。翌年、竹早高校から10数人が東北大学を受験したという。しかし現役合格は1人だけであつたらしい。何故そんなに受験をしたのか、下の学年に聞いてみた。それは「あの木島さんが合格」という現象かららしい。昔の人はうまいことを言う。同じ柳の下に泥鰌は2匹いない。この後日談は、僕がどのようにみられていたかを如実に物語っている。運だけは良かったようである。

竹早高校時代は自分の人生にとって語りつくすことができないほど多くの、そして重大な出来事が次から次に襲ってきた。その一つ一つについて自分で考え、自分で行動し、自分で課題を背負っていった。それが自分を育ててくれた。もちろん周囲の人も環境も助けてくれたに違いない。自分では高校時代を無意味と考え、無駄に悩んでいるような若き日々と思っていた。しかし、回想してみると、高校時代は決して無駄でも無意味でもない。必ず自らの血となり、肉となっている。実感である。

## 卒業写真♪

E組 水田 茂夫



高校時代に夢中になったことは、何であれその後の人生に大きな影響を及ぼすものらしい。私が竹早高校時代に夢中になったのは、瞳が大きく聡明そうな同学年の少女だった。私はすっかり心を惹かれた。仲良くなりたいと思ひ話しかけようとするのだけれど、情けないことに少女の前では口が凍りついて何も言えない。少女に好意を寄せる男子生徒が他にもいるにもかかわらず、口を利けない少年には何もできない。やがて少女に彼氏がいるらしいと知り、少年は「屈辱の苦さ」を味わった。竹早は、少女にうつつを抜かす少年を道場に引きずり出していきなり投げ飛ばし、「頭を冷やせ」と一喝したのだろう。少年は我に返り屈辱を乗り越えたいと願った。「T大学に入学する」という目標を立て必ず達成しようと決意、2年生の夏休みから受験勉強に没頭し成長への一歩を踏み出した。

屈辱を乗り越え得たのは高校卒業の16年後だった。T大学を出て大企業で技術者を務めていたが、会社員生活に物足りなさを感じ「人生航路の進路は自分で決めたい、広い世界で自由に思うままに生きたい」と思っていたところ、海外留学を契機に米国の投資銀行から転職を誘われ、34歳で人生をやり直そうと国際金融の世界に入ったのだった。職種を選ぶ際に、「私がこの転職に成功できるとしたら、多くの不可能を乗り越えている筈だ。それなら人と話す仕事に就こう、心を惹かれた少女を前に口が凍りついて何もできなかった竹早の屈辱を思えば、シャイな自分を積極的に話す自分に作り替える不可能も乗り越えられる。」と考えた。そこでお客さんと話す機会の多い営業部門を志望し、まだ取引のない銀行に営業に行き米国債の取引を勧める仕事を選んだ。

ろくに話を聞いてもらえずに苦闘していた頃、夢の中に竹早の少女が何度も現れ、その度に竹早道場の「屈辱の苦さ」を思い出し、「必ず成功させよう。」と決意を新たにした。「どうすれば相手をもっと関心を持つか」を考え続けていて、ふと、話を聞いてもらうには、相手が聞きたい話題

を話せばいいと気付いた。日本の銀行員が聞きたい話題はアメリカの金融政策や経済指標を解説する最新の市場情報に違いない。ニューヨークのエコノミストからデータを取り寄せて市場情報の要約を作り話してみたところ反応があり、翌日から私の要約を聞きたい銀行員が電話をかけてくれるようになった。「こうすれば聞き手が耳を傾けるのか!」という気付きがきっかけとなり、やがて取引もできるようになった。その時、竹早の少女を前に口が凍りついた原因は「自分をカッコ良く見せたい」という自意識にあったと気づき、思わず膝を打った。赤面しようがシドロモドロになるが、なりふり構わずに少女に話しかけて好意を示す「人なつこさ」が少年には必要だったのだ。

国際金融の仕事は感動的な出会いや発見や刺激に満ちていて、私の職業人生の天職になった。ニューヨーク本社に赴任し、世界最大の市場で営業マンとして腕を振るうチャンスにも恵まれた。もし竹早道場で投げ飛ばされず「屈辱の苦さ」を味わっていなければ、そして、もし営業部門を志望していなければ、この天職に行き着くことはなかったと思う。

私は、竹早を卒業して16年もの間、高校時代は思い出すのもいやだった。それほど屈辱の味は苦かった。しかし卒業から42年を経た今、竹早こそ少年に試練を与え、乗り越える者には成長する意志を与え、成長する者には天職への道標を指し示したと思う。私は竹早で、『人生は懸命に生きる価値がある』ことを教えられた。

竹早の少女は、私の人生に決定的な影響を与えた。元少女はそんな事情を露も知らず迷惑に思うだろうけれど、卒業後も彼女を心の中の友人として天職に行き着いた少年の人生を知って欲しい。『竹早時代の貴女に心を惹かれた元少年です。在学中に言葉を交わした事はあまりなかったけれど、人生の岐路に立った時、私は貴女に背中を押してもらい、苦闘している時に励まされ、貴女に心を惹かれたご縁から人生を懸命に生きることを学びました。ありがとう。♪貴女は私の青春そのもの♪』

## 自らの食い扶持は自ら稼ぐ

F組 鈴木（大河内） 宏子



先日開かれた学年会で高校を卒業して早42年が過ぎようとしていることに気付かされ、驚いています。振り返ってみると、本当に色々なことがあった3年間だったという気がします。

中学までの狭い行動範囲から、一気に電車通学による家から遠く離れた開放感とラッシュアワーの疲労感と、そして中学までとはずいぶん内容の異なる授業内容に毎日ワクワク、ドキドキの日々でした。誤解を恐れずに言えば、小学校や中学では家で毎日一生懸命勉強しなくてもそれな

りに通知表は恥ずかしくない数字が並んでいたのに、高校1年の1学期にもらった成績は5段階評価で3がいっぱい並んでいてもうびっくり。人生最初の一大ショックだったかも知れません。その後、少しずつ成績は上向いたものの、賢い同級生がいっぱいいいて、世の中は広いということを実感させてくれた最も身近な最初の経験ではありました。

そして、やはり学園紛争のことが一番強く頭に残っています。世の中が騒がしくなり、70年安保の学園紛争の大波の中で、同じ文京区にあった東大の旧安田講堂が燃えているというニュースをその近所に住む同級生がいち早く教え

てくれ、竹早も授業が行われなくなって、全校集会が続き、毎日学校へ行くのか友達とおしゃべりをしに行くのか分からないような日々が続きました。校舎の建替えのため、新宿高校の旧校舎を借りて授業をするという普通では思いもよらない状況もあり、そこでも学園紛争は続き、授業がないので伊勢丹の食品売場や洋服売場へ行って眺めて楽しんでたこと、体育の授業が新宿御苑を横断して東京都体育館や陸上トラックへ行って行われたことを思い出します。今思えば、せっかくのチャンスだったのに、あまり映画を見なかったことが悔やまれます。映画を見る時間はあんなにいっぱいあったのに。

学園紛争の影響は負の面ばかりではなく正の面もあったと思います。学校全体が校舎の建替えもあって明るくなったこと、風通しがよくなったこと、受持ちのクラス担任、教科担任の垣根を越えて、教師の教を請うことが出来るようになったことです。数学がイマイチ伸び悩んでいた時期に個人的にお願いして、徳永先生に問題集の添削指導をしていただくことができました。飛躍的にとまではいかなくとも、何とか合格点に達することができたのはそのお陰だと思っています。

修学旅行で万博に行ったことも一大イベントとして記憶しています。1日自由行動の日があって京都から大阪に万博を見に行ったのです。時間がなくて、しかも、アメリカ等メジャーな会場は混んでいて長く並ばなければならぬので、諦めてアジア、アフリカ等すぐ見られるところばかりにしたため、何を見たかと問われると印象ははっきり

り言って薄い感じです。でも、自分の中では、万博会場に行くとあの雰囲気を感じたということは残っています。なんとも言えないあの華やかな雰囲気。

母の死も個人的には大きな出来事でした。それまでも、母は入院していることが多かったので、家事は姉妹3人で分担して行うという体制にはあったのですが、本当にこれからは父と4人でやっていくしかないと改めて覚悟しました。

そしてたぶん自分にとって精神的に大きな支柱となった考え方、「自らの食い扶持は自ら稼ぐ」は学園紛争や母の死を経て形成されたものではなかったかという気がします。いくら立派なことを言ったところで、自分の生活の糧を人の世話になっているようでは何にもならないということ、最低限の生活の技術を身につけて独立して生きていける力を持つこと、精神の独立は経済の独立なくしては為し得ないと思いついたことです。

今から振り返ってみると、高校時代の1年1年の時間の長さを感じずにはいられません。年齢を重ねると時間の過ぎ方に加速度がついて、毎年追われるように過ぎ去っていきます。そしてもうすぐ定年を迎えます。これからの20年(30年かも)をまた充実した日々にするため、大好きな海外旅行をしながら、少し立ち止まってゆっくり考えてみようと思っています。高校生あの頃のように、毎日、何かわけの分からないことを、一見無駄に見えることを考えていた頃に戻って。

## 高校紛争のころ

田村 達之先生

国語科(昭和41年4月~昭和46年3月在職)



大学卒業後、初めて着任したのが本校です。私の40年余りの教員生活の出発点でした。

着任した頃の本校は、東京学芸大学附属中学校と校舎は半分ずつ、校庭は1日おきに使用していました。施設が不十分で、部活動なども十分行えなかったため、進学・受験の指導に力を入れ、放課後、国語・数学・英語などの補習をしていました。

昭和41年7月、学校群制度が成立し、本校は、小石川高校と41群を組むことになり、42年4月にその第1期生が入学しました。私は43年度の新入生のF組(男子19名・女子33名)の担任となりました。

44年度に多くの都立高校で「高校紛争」が起きました。当時活発になっていた大学紛争の影響や、学校群制度のため希望の高校に入学できなかった生徒(例えば41群の合格者は竹早高校・小石川高校のどちらかに振り分けられるが、希望校に入学できなかった生徒)の不満などが根底にあったようですが、本校の特有の問題もありました。

本校は、放課後の補習を対象者から費用を徴収して実施

していたのですが、その補習費の不適正な会計などの問題が、新聞に報道され、それをきっかけにして紛争が起こったのです。

紛争は、校舎改築のため、7月に旧新宿高校校舎に移転後も長く続きました。その間、教科の授業は実施されず、連日、クラス討論や全校集会などが行われました。不祥事に対する非難をはじめとして、教員の生徒に対する態度、授業や評価の仕方などに批判が及びました。そして、生徒集会で「生徒権宣言」が採択され、さらに、制服制度が廃止されるなどしました。

生徒から批判を受けているときは、つらくて教師を辞めようと思ったこともありました。しかし、この紛争を通して教師と生徒の関係、授業や評価の在り方など、教育の本質の問題について考えたことは、私の教員生活において貴重な経験となりました。

私が担任した学年の卒業生は、時々同期会を開催していますが、当時の担任を招待してくれ、うれしく思います。卒業生は還暦を迎えたとのこと、光陰矢の如しの感を深めているこの頃です。

# 第5回 篁会特別セミナー報告

2012年7月17日（火）

## ●【はじめに】

本年の特別セミナーは、ほぼ昨年と同規模で7月17日（火）5・6時限目にて実施しました。会報No.20～No.23号又はHPに、これまでの実施の状況・注目ポイントを報告していますのでご参照ください。

また、土曜日に計4回のセミナーを新たな試みとして開催しましたが、本稿の最後に報告します。

## ●【1.本年のチャレンジ】

本年の狙いは、学校の準備負担を減らすため時間割を篁会で編成しました。生徒からの希望を携帯・パソコンなどからWEBサイトに入力してもらおう方法を取りました。賛否両方の意見がありました。

さて、セミナーの内容に関する前年度との変化点は下記の通りです。

- ①ガイダンス資料：本年度は、ガイダンス資料をカラーA4版8ページとしてパンフレットの形で配布。
- ②ガイダンス説明会：6月4日に開催して2年生全員に説明。目的、経緯、各セミナーの内容を、竹早高校2年生生徒2名の協力を得て、対話形式で説明。
- ③講師の側の事前準備会：4回開催して“意識合わせ”“情報の共有”ができた。講師相互、講師・事務局の連帯感・結束が生まれた。
- ④生徒から講師へのエール・事前質問：例年のように実施。ただし、感性をつかむ意味で他セミナーの分もできるだけ話し手に配布。話し手はそれをプレゼンに反映した。
- ⑤セミナーの前年度との異同
  - (ア)クラシック音楽の仕事→本年度、試みに開催した「土曜セミナー」に設定。
  - (イ)外務省の仕事→話し手が多忙のために開講できず。
  - (ウ)公務員と民間企業の仕事→「ガイダンスと土曜セミナー」に発展的に解消した。
  - (エ)クリエイターの仕事、航空会社の仕事、中国関係の仕事につき強力な話し手を得て、新たに開講。
  - (オ)編集者の仕事→出版社の仕事にした。
  - (カ)建築デザイナーの仕事、俳優の仕事は、今後の土曜セミナーの候補にした。
- ⑥時間割を篁会事務局が作成：時間割は本年度全て篁会セミナー事務局側で作成。生徒が選んだ第一希望2コマを全員が取れるよう編成。

⑦WEBでアンケート：WEB作成は外注も検討したが、値段が非常に高いため、既存のサイトでアンケートを自作した。例年、生徒からの意見は紙での入力でしたが、PCや携帯からも入力が可能になり、多くの生徒からじっくりと意見を伝えてもらった。

⑧WEBの応募状況を見ながら3コマ増設：希望の様子でタイムリーに増設できた。ただし生徒の側の対応に時間も掛かり、実務として大変なことが判った。

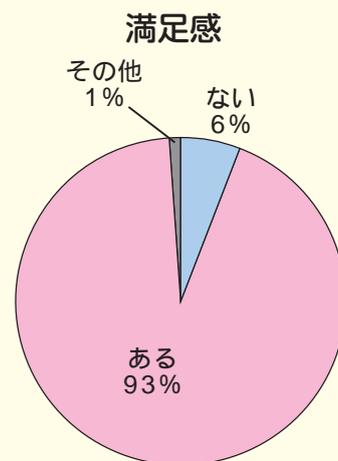
⑨さらに磨きのかかったプレゼン：本年は、話し手の資料の分かり易さ・説明の明快さへの評価が大変に高かった。話し手は一年一年、経験を積んで、益々やりやすいセミナーに向けた準備をした。

⑩本年度のPC/プロジェクター：説明資料を作ったことや学校の先生の協力もあり、トラブルはなく、PJ-Cartという学校にある装置の利用も定着しつつある。生徒からのPC準備の不備の指摘は、本年度は皆無。

## ●【2.内容の概要から～卒業生のパワーの結集による渾身のセミナー】

以下で本年度のセミナーの話し手の活躍の様子や、実施の内容をご紹介します。

生徒へのアンケートは、何年か一度にすることとして、本年度は、前年度の分析を基にセミナーを準備しました。本年度のセミナーはそれぞれ表の内容で、結果として重複を含んで22講座が開設されました。セミナーに深い内容を与える意味で、第一線でその世界の様子の方が話されており、満足度・参考度は高いレベルを維持していました。話し手については、学校・父母と教師の会との話や、アンケートなどの様子を参考に、併行して若返りを徐々に進めております。実際、今年は篁87回生の参加もありました。



番号	話し手	内容	サブタイトル・主な内容
1	大原章博（筈 77 回生） 東京都 中学校副校長	中学校教師の仕事	中学教師の仕事 ・ やりがい、大変さ、教師に期待されること 大学から教師を志すまで ・ 進路決定までに考えたこと、きっかけ ・ 教師生活で強い印象を受けた出来事
2	田沼令子（筈 77 回生） 映像翻訳者	翻訳の仕事	映像翻訳とは、外国語のドラマやドキュメンタリーなどに字幕を付けたり、吹き替え用の台本を作ったりする仕事です 実例を交えながら、この仕事の面白さや苦勞をお伝えします また、出版翻訳・実務翻訳・通訳などの語学を生かした仕事に就くための心構えや、具体的な方法についてもご紹介いたします
3	鈴木陽子（筈 77 回生） 音楽家	音楽家の仕事 ”夢を追い続けて・・・”	・ 音楽との出会い ・ 仲間との出会い ・ 夢の実現 ・ 新たな目標に向かって
4	前田文志（筈 78 回生） 出版社勤務	出版社の仕事 ”本”を出す仕事	本の出版・編集の仕事はIT社会においても価値ある仕事です 出版社の仕事を紹介し、その内容を考えます ～今、出版の仕事とは・どんな能力や適性が必要か ～仕事の面白さ（と苦勞） 出版社の仕事を目指すには
5	仲尾啓子（筈 77 回生） 大手化学 分析グループマネージャー	女性研究者・技術者の仕事 化学企業の場合	分析の仕事とは ・ 女性に適した側面とは 女性研究者としての生き方 ・ 家庭生活と仕事・女性に向けた仕事 ・ 感動したこと
6	鈴木宏子（筈 71 回生） 税理士 / 米国公認会計士	税理士・公認会計士の仕事	公認会計士の仕事とは 資格を活かすには 仕事のおもしろさ 女性とキャリアについて
7	飯塚均（筈 77 回生） 鍼灸治療家 エステティシャン講師	治療家の仕事 （美容エステ / 鍼灸指圧）	どうしたらエステティシャンや治療家になれるか ～ 誰にでも道は開けている 関係資格を活かすには ～エステティシャン、スポーツトレーナー 仕事の楽しさ・つらさ 女性の志望者が増えている（美容エステティシャン） エステティシャンへの道を中心に話します
8	鈴木克洋（筈 87 回生） 航空会社勤務	航空会社の仕事	航空ビジネスの特徴 ・ グローバルビジネスとしての航空会社 ・ 大学教育の内容と、航空会社の仕事 / 周辺（グループ会社） 印象的な出来事 ・ 仕事の進め方 / 苦勞 / やり甲斐 航空会社を目指すには
9	松坂克雄（筈 77 回生） 広告代理店勤務	クリエイター - の仕事	CM など広告コミュニケーションの仕事とは？ ～ 手がけた CM をお見せしながらお話しします ・ 劣等生がクリエイターになった理由 ・ 具体的な仕事の内容。楽しいところ、大変なところ ・ クリエイターの報酬
10	岡田晃明（筈 77 回生） 大手小売マネージャー	小売業における マーケティングの仕事	小売業におけるマーケティング ・ 商売ってこんなに面白かったんか!? 目から鱗の非常識! ・ セブン&アイは何故CMにAKB48を使うのか! 他
11	水田茂夫（筈 71 回生） 資産運用会社経営	留学と海外への就職	留学を考える 外国の会社に就職をする / 外国に永住するには 日本人と外国人 英語だけは勉強しよう ・ 企業研究者の日々
12	秋元哲夫（筈 77 回生） 国立がん研究センター 研究開発部長	医師 / 医学研究者の仕事	医者を目指すまで ・ 自分が医学部受験に目覚めた瞬間とは 医学の専門分野の特徴 ・ 放射線医学（がん治療）とは / そのやり甲斐と困難さ 米長永世棋王（将棋）との出会い ・ 主治医として
13	志賀利一（筈 77 回生） ヘルスケア機器研究・開発戦略 開発部長	企業研究者の仕事 企画・研究・開発	・ きっかけ、強い印象を得た出来事 研究開発とはどういう価値があるものなのか、その大変さとは何か ・ 研究開発が企業を支えるメーカーのビジネス メディカルエンジニアリングの開発プロジェクトの雰囲気はどういうものか ・ 企業研究者の日々
14	加藤康二（筈 82 回生） JETRO 勤務	中国関係の仕事	最新中国のビジネスの特徴 ・ 大学教育の内容と、中国関係の仕事のつながり ・ 語学ができるメリットは ・ 仕事の進め方 / 苦勞 / やり甲斐 ・ 中国・アジアの市場を目指すには
15	伊藤麻沙人（筈 68 回生） 陶芸家 *時間数 2 コマです	芸術の仕事・キャリアとは 陶芸家の仕事	轆轤（ろくろ）を使うこと（実演） 陶磁器のできるまで 陶芸家の暮らし

※希望の多かったお話について、岡田さん、松坂さん、水田さん、大原さん、田沼さんの5名の方々が45分の2コマを快く引受けてくださいました。伊藤さんの「芸術の仕事」は2コマ続きの1セミナーとさせていただきます。

### ● [3.セミナーのアンケートから分析]

竹早高校の協力、父母と教師の会のバックアップ、篁会会員・理事などの30～40名ほどの協力のもとで、無事に2012年もセミナーを実施することができました。このセミナーが実施できるのは、第一線で活躍され

ている非常に忙しい方々の協力があってこそです。以下で、アンケートに見える生の声や、数字を基にした若干の考察を記載いたします。まず、実施意義についてですが、今年も生徒の高い支持率を維持できました。

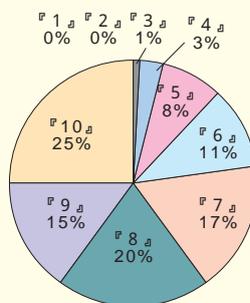
#### セミナー実施意義

2009年 70%, 2010年 93%, 2011年 96%, 2012年 93%, と推移があった。2012年は実施意義について幅広い生徒層からの支持があることが示された。

非常に多くのセミナー数を開設した2010年、2011年に匹敵する高率であったことは期待以上。

#### 満足度

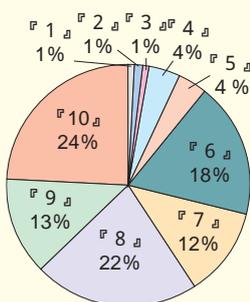
『1』かなり不満 ～ 『10』大満足



全平均 7.79 (前年度 7.98)  
セミナーの話の内容については、生徒の極めて多様な感性・興味、大人数のマスプロ教育の制約の中としては、満足度にも高い支持があったと考えられる。

#### 参考度

『1』低い～『10』高い



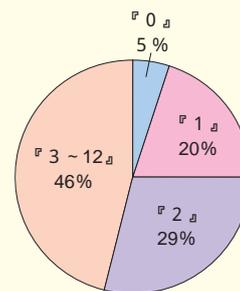
参考度は人それぞれであった。事前に持っていたイメージとは違うケースが多々あったようである。(昨年同様の傾向) 平均値としては高かった。

全平均 7.68 (前年度 7.52)

若干ではあるが、昨年度よりも参考度が高く満足度が少なくなったことは、例年以上に特別セミナーならではの突っ込

だ話、生徒にとって厳しい話が多かったこともあるかもしれない。事前のイメージと違う苦労話を聞いたことに心理的に関わる可能性もある。また、生徒のコメントからみると“理系への興味が増した”ことにも関わるかもしれない。昨年度実施のセミナーのうち「俳優の仕事」「建築デザインの仕事」「外務省の仕事」「クラシック音楽の仕事」が「クリエイターの仕事」「航空会社の仕事」「中国関係の仕事」に変わった影響も少し考えられる。

#### 興味あるセミナーの数



興味あるセミナーの数を見ると、2個以上が75%であった。昨年度の80%から5ポイント低下した。セミナーの数を絞り込んだことで、若干の影響があった可能性がある。セミナーの数を今年度は維持する考えです。また、仕事そのものでなく、話し手のキャラクターで選んでいく考え方を説明会で十分に説明することが重要と考えている。



## ●【4.竹早高校2年生の感想から】

以下、アンケートに記載された生徒の生の声を、紙面が許す限り紹介します。なお、改善点のヒントも、生徒への質問では聞いており、すべては次年度計画には役立てています。

選択セミナー	セミナーの良かったところ	感想	選択セミナー	セミナーの良かったところ	感想
出版社の仕事	声が聞き取りやすかった	ありがとうございました。とても参考になりました。	留学と海外への就職	自分の学校にいたころはなしなどの面白い話を挟みながら話してくださったので、1時間集中を切らさずに聞くことができました。	ものすごく留学に興味があったこともあり、自分も海外について自分の得意なこと好きなことを見つけて、働きたいときに思うことができた。チャンスをたくさん見つけて挑んでいきたい。
音楽家の仕事	歌ってくれたこと	貴重な時間頂きありがとうございました。すごく声が綺麗でした。	企業研究者の仕事	企業研究のむずかしさとその偉大さを知ることができました。	マネアックな話もいろいろきけて楽しかったですし、何よりも夢に向かって努力をすること、後悔しない人生を送ることも教わり、とても有意義な時間でした。
クリエイターの仕事	とても親しげに話してくださったこと。面白仕事について話してくださったこと。	クリエイターという仕事についてどういものか知りませんでしたが、話を聞いてすごく興味が湧きました。感性とかセンスとかが重要になってくる仕事だと思いますが、クリエイターという仕事について、もっと積極的に知っていききたいと思います。	小売業におけるマーケティングの仕事	話がすごく面白かったです！興味がわきました。	マーケティングって面白そうだなと思いました。お話とても面白かったです！もっと聞きたい話がたくさんありました。
翻訳の仕事	翻訳の仕事について今までにも知らなかったけど、参加してみても色々知ることが出来て良かった。	お忙しい中本当にありがとうございました。映画を見ながらの翻訳の実音など、楽しかったです。今回で今までの翻訳の仕事について全然知識がなかったけど、色々知ることが出来て良かったです。ありがとうございました。	出版社の仕事	自分に身近な事柄の裏を知れた感じが面白かった。色んな人が関わり製本している様子が伝わった。本屋に行きたくなった。	学校まわりの話や、色々まわったお話が聞いて楽しかったです。ありがとうございました！
税理士・公認会計士の仕事	説明がとても詳しく、分かりやすかったです。	質問にも分かりやすく答えてくださりありがとうございました	小売業におけるマーケティングの仕事	具体的に話してくれて、とても興味がわきました。	マーケティングのことをあんまりしなかったのですが、具体的な話をしていたら、とても興味をもちました。ありがとうございました。
女性研究者・技術者の仕事	自分の経験を基本として、お話しして下さりとても真実味があつてよかったと思います。	とても分かりやすくなりました！どうもありがとうございました m(_)_m	企業研究者の仕事	理系について良く分かりました。	理系について熱く語ってくれてありがとうございました。
税理士・公認会計士の仕事	自分の経験をもとにわかりやすく、丁寧に説明してくれたところ。	公認会計士になることの難しさがよくわかりました。	医師・医学研究者の仕事	うーん？	難しかった
税理士・公認会計士の仕事	資格の取り方、難しさとか仕事の内容とか短時間で多くのことが聞けてよかったです。	今回の話を聞いて会計士や税理士の仕事に興味も持った。将来この仕事も視野に入れてくかもしれないので話を聞いてよかったです。	留学と海外への就職	参考になった。	すごい人だな、と思った。
クリエイターの仕事	講師の方が作ったCMを見てもらいながら話をしてくれたので面白かったですし、分かりやすかったです！	お忙しい中、いろいろな話をしてくださりありがとうございました！私はCMや広告作りの仕事に前から興味があったので、とても参考になりました。楽しかったです！	留学と海外への就職	留学の仕方にはたくさんあることがわかってよかったです。	留学の仕方がたくさん知れて良かった。
女性研究者・技術者の仕事	女性が働くことについて話して下さり大変さや楽しさを知れたことが良かったです。	女性が働くことについて、実際に聞くことができてこれからの進路などの参考になりました。	小売業におけるマーケティングの仕事	創造力をつかうクイズがおもしろかったです。	お客さんに商品を買ってもらうためにいろいろ工夫がされていることが分かった。大変だけれどやりがいがありそう。
音楽家の仕事	言葉の説明だけでなく、CDを聴いたり、DVDを見たりしながらだったのでわかりやすかったです。経験談をたくさん聞いたので良かったです。	私は吹奏楽をしているのですが、高校を卒業したら音楽はできなと思っていました。でも今回のお話を聞いて、本当にいろいろな面で音楽に触れていられることがわかり、私もまだまだ音楽に触れていきたいと思います。また、音楽を楽しんで、聴いてもらう人にも楽しんでもらって納得してもらおうと音楽づくりをしたいと思いました。貴重なお話を聞いて良かったです。ありがとうございました。	小売業におけるマーケティングの仕事	CMやたくさんさんの動画を見せて説明してくれたので、楽しかったです。クイズもたくさんあったので、とても意欲を持って参加できた。	商品を売るとはどういうことか？どのように工夫するか？といったお店の努力を学べたこと共に仕事には創造力とひらめきが必要だということがわかりました。大学選びにも役立てると思いました。ありがとうございました。
音楽家の仕事	まず今回、話を聞いて一番よかったのは音楽への関わり方には様々な方法があると知ることができたことです。将来、音楽関連の仕事につくても音楽に関われるのだからという経験談は将来の職業を決める上で重要なお話であったと思います。	今回はお忙しい中私たちのために時間を割いていただきありがとうございました。	企業研究者の仕事	今後の人生について、やってみたいこと、知っておきたいことを教えてくれた。	今後の進路というのは、さいなきつかけで決まることや、自分の思ってもみなかった方向に進むことがあるということも教えてくれました。自分もそうだったために、幅広い知識を手に入れようと思います。またははっきりと反対意見も言えるようにしたいと思います。忙しい中、ありがとうございました。
航空会社の仕事	航空についてとても詳しく話していただいたので、とても役に立ちました。	ぼくは航空業に少し興味があり、その会社の仕組みも教えていただいたので、とても興味深く、面白かったです。またどのような勉強をすればいいのかも教えていただいたので、役に立ちました。	留学と海外への就職	もともと興味があったのですがもっとおもしろいと感じることができたところ。	もともと興味があったのですが興味が増えました。CMの効果とかとてもおもしろかったです！
治療家の仕事	今まであまり聞いたことのない種類のお話で面白かった。初めて知ることがたくさんあった。	初めてお話を聞く職種のかたでした。現実的な話はたくさん聞いて興味深かったです。ありがとうございました。	小売業におけるマーケティングの仕事	実際に受験にも使えるような知識をいろいろ教えてくれた。	実際に受験に使えるような知識を教えていただけですごく参考になりました。留学についても前向きに考えたいなと思いました。忙しいなかありがとうございました。
女性研究者・技術者の仕事	映像を使ってわかりやすかったです。	大学を決めるのに参考になりました。ありがとうございました！	小売業におけるマーケティングの仕事	身近な話(おにぎり、納豆、お弁当など)を例にお話ししていただいたのでとてもわかりやすかったです。	普段よく見るCM、コンビニでよく買うおにぎりなど身近な分野からお話ししていただき、興味をもって聞くことができました。私たちが商品を手にとり買うに至るまでには、企業のごんなど、あんな戦略があるんだなあと、とても面白かったです。納豆やお弁当のお話では、発想の転換という点でマーケティングに限らず生きていく上でためになるお話しでした。最後までふむむむと思いがら聞くことができました。貴重なお話ありがとうございました。
女性研究者・技術者の仕事	パワーポイントを使つての講義でわかりやすかったです。	将来社会で働くにあたって参考にしたいと思うことがたくさんありました。	小売業におけるマーケティングの仕事	Cの話が聞けた。	忙しい中時間を割いていただきありがとうございました。とても興味深いお話でした。
クリエイターの仕事	実際に作ったCMを見せてくれたところが良かったです。	アイデアが重要な仕事なので成功するしは才能だと思いますけど、芸能人と仕事ができたりいろんな所へ撮影にいけるのは楽しそうだなと思いました。	翻訳の仕事	DVDで実際にクイズをしたりというのがとてもわかりやすくて楽しめました。	通訳の仕事にはもともと興味があったのですが、このセミナーでさらに興味が増えました。クイズも楽しんでできたし、具体的な話が聞けてとても勉強になりました。ありがとうございました。
治療家の仕事	顔のツボを教えてくれたのが実用的で良かった	自分はいつも整骨院を利用させてもらっているのですが、興味があったのでとてもおもしろかったです。	中国関係の仕事	プリントの内容も深く、わかりやすく、とても親近感がわきました。	中国語を実際に自分の持っているツールとして、これからの生活の中で活用していけるような人材になりたいなとおもった。
音楽家の仕事	実際に曲を流してくれたところ	わたしは吹奏楽部に所属しています。わたしも音楽で人を感動させたいです。	留学と海外への就職	留学のいろいろな方法を知れてよかったです。	ありがとうございました。将来の選択肢が増えたのでよかったです。
航空会社の仕事	聞きやすかったです	とても楽しかったです。他では聞けない貴重な話が聞けてよかったです			



選択セミナー	セミナーの良かったところ	感想
クリエイターの仕事	実際の仕事の様子や作ったCMを沢山知ることができて面白かったです!	クリエイターという仕事について、今までよく知りませんでした。今回お話を聞かせていただき、クリエイターという仕事に興味をもつようになりました。
女性研究者・技術者の仕事	説明がわかりやすく、会での女性の立場などについてわかった。	結婚や出産が仕事にどう影響を与えるか知りましたが、会社の制度が重要だとわかりました。
クリエイターの仕事	まず話し方が聞きやすく、中身も興味があるお話がとてもよかったです。	改めてありがとうございます。ドラマ、映画など現場に興味があったので楽しく聞きました。なりたい気持ちが高まりました。
中学校教師の仕事	中学校教師になるための道のりとなつてからの大変さとか苦労とか感動したこと、やりがいなどを詳しく具体的に話して頂いたので。	生徒への愛情とかをすごく感じた。先生でも生徒目線で話したり授業したりすることが大切なんだなと思った。
中学校教師の仕事	普段身近にいる先生方からは聞けないことを聞いて、先生方もいろんなことに気を使って学校での指導を行っているんだなと思いました。このセミナーがなかったら気づけなかったと思うので、これからの学校生活のためにもよい話が聞けたなと思います。	話を聞いていると、みんなに好かれるような先生なんだなということがなんとなくわかりました。私も、学校を卒業した後も付き合いの続く先生に出会いたいなと思いました。
クリエイターの仕事	クリエイターのお仕事のなかなか聞けない事情を聞くことができたこと。	私も早く夢中になれる道を見つけないかと思いました。お仕事の情熱が伝わる素敵なお話が聞けてよかったです!
治療家の仕事	眠気に効くツボを覚えてもらったりそういう実践的なことを聞けたのが良かったです。	お忙しいなか、普段耳にする機会のない専門的なことをお話ししていただき、ありがとうございます!
クリエイターの仕事	すごい人が来てくださって物凄い刺激をうけました	仕事の現場がよくわかりました
治療家の仕事	専門的なお仕事をされる上で長所短所が知れたこと。また、自分の夢への自信が持てる内容だったこと。	お忙しい中ありがとうございます。人生は一つではないということがわかりました。色々なことに挑戦して試行錯誤しながら生きたいと思えます。
翻訳の仕事	英語の字幕の話などとても興味深く洋画の見方が変わった。英語を通して行う仕事に興味を持った。	とても面白かったです。翻訳の道を少し考えました。
音楽家の仕事	実体験が多くてよかった	すごくわかりやすかったです。ありがとうございます。
翻訳の仕事	実際に訳をやらせてみたところ。	とても楽しい一時間でした。個人的には受験のやり方を教えてくださったこととても参考になりました!! 来てくださってほんとうにありがとうございます!!
クリエイターの仕事	勉強だけが全てではないと教えてくれた。自分のやりたいことを決めてそれに向かって進めばいいことを分かった。	自分が考えたアイデアが映像化されて、みんなに見てもらって、いい評価をもらうことはとても嬉しいことだし、自分もこのような仕事が出来ればいいなと思いました。自分も考えたアイデアを絵にしてもみたり、作ったりするのが好きなので、このような仕事があることを知れて将来の幅が大きく広がったと思います。ありがとうございます!
中学校教師の仕事	教師の大変なこと、やりがいわかってよかった。	教師としてどのような心がけが必要かなど、興味深いお話をしていただきありがとうございます。
音楽家の仕事	音楽で生計を立てていくことの大変さがよく分かりました。	大変参考になりました。ありがとうございます。
陶芸の仕事	話していたら意外とすぐに時間が経って、陶器を作るのはめっちゃくちゃ楽しかった。またやりたいと思いました。	話していたら意外とすぐに時間が経って、陶器を作るのはめっちゃくちゃ楽しかった。またやりたいと思いました。
音楽家の仕事	音楽活動だけではなく障害児とのふれあいや自立のすばらしさが伝わった。	音楽活動だけではなく障害児とのふれあいや自立のすばらしさが伝わった。
税理士・公認会計士の仕事	資料を何種類か使って説明してのが良いと思った。	具体的なことが知れて良かった。
音楽家の仕事	話してくれた人から音楽はとても素敵ということがよく伝わってきた。	本当に和む歌声でした。
音楽家の仕事	歌が上手だった。	夢は諦めなければ叶うということを改めて感じることができました。私も諦めずに努力していこうと思いました。
陶芸の仕事	少人数で先生と仲良く話せたり粘土にさわったりして体験出来てよかったです	先生のお話を聞いて楽しく聞きました。粘土もさわって楽しかったけれど楽しかったです! ありがとうございます。
クリエイターの仕事	一流大学でなくても活躍できることがわかったこと	自分の才能を生かすことのすばらしさがわかりやうたいことをやっていたらいいなと思いました。
クリエイターの仕事	大変なところや楽しいところがあったので、とても興味深かった。	身近な体験談を交えてお話しして下さったので、とてもわかりやすく楽しく聞くことができました。
女性研究者・技術者の仕事	わかりません	同じ女性としてきちんと目標をもって取り組んでる人の話を聞いて今後どのようにしたらよいかをなんとかだけどわかりました。ありがとうございます。
税理士・公認会計士の仕事	税理士と会計士の違いについて詳しくわかった。資格が必要なことは知っていたけど、5個も必要なので、頑張りたい。	忙しい中ありがとうございます。親から勧められていることだったので、いろんなことが分かってよかったです。
出版社の仕事	スライドショーで画像を多用してわかりやすくしたところ。生徒でも理解できる人物を出して、すごさをアピールしていたところ。	本ができるまでの大変さを理解しました。

選択セミナー	セミナーの良かったところ	感想
出版社の仕事	出版の仕事において楽しいところや失敗談など、リアルなお話を聞かせてもらえたこと。	出版の仕事について内容だけでなく、実際に働いている人のお話を聞いて楽しかったです!
企業研究者の仕事	理系が中心になることがよくわかった。	学部に関わらず様々な知識が必要なのだとわかりました。
小売業におけるマーケティングの仕事	プロジェクターを使ってのものだったので、すごくわかりやすかった。	何をどう売るかによって売上げが変わってきたり季節によって売上げが変わってきたりするのすごく面白かった。アイデア大切。
企業研究者の仕事	みんなで話し合いに参加出来たところ。	世界を飛び回りながら仕事をするのがとてもかっこいいと思った。価値を自分の手で創造することに憧れを感じました。自分の行いで社会に大きく影響を与えるような仕事に就きたいと思いました。
企業研究者の仕事	理系の内容がよくわかったこと。	夢を忘れずに思ったことははっきり言おうと思うことができました。ありがとうございます。
医師・医学研究者の仕事	スクリーンを使っての説明がよかったです。	お忙しいなか、普段耳にする機会のない専門的なことをお話ししていただき、ありがとうございます。
小売業におけるマーケティングの仕事	話して下さったこと全てが聞く価値があるもののように感じました	クイズが良かったです
小売業におけるマーケティングの仕事	難しい話だと思ったのがわりやすくて具体的なお話をしてくださったこと。実際に自分が考える時間があつたこと。	お忙しい中ありがとうございます。どんな仕事をするにしても自分で創意工夫や分析をすることは大切なんだと思いました。自分も色々な発想を試してみようと思います。
医師・医学研究者の仕事	専門的でよい	おもしろかった
留学と海外への就職	自分の経験を元に話を進めていった点。	留学や海外進出は個人的に色々壁を建てて考えていたのですが、講習を受けてくつと近づいて考えることが出来るので、今回の講習をしてくださってほんとにありがとうございます。
航空会社の仕事	とても手の込んだスライドを見せてもらったので、深く理解しやすかった。どんな質問でもきちんとした回答をしてくれたのでとても質問がしやすかった。仕事の細かいことまで教えてくれたので面白かった。	自分はよく父親に航空会社の話を聞いていたのだから知っているつもりだったが、今回のセミナーを受けてまだまだ知らないことが多くあつた。特に航空会社は実は厳しい世界にあると知った時は自分がイメージしていたのと違っていたので驚いた。面白い話もたくさんあったのでとても楽しい時間になりました。ありがとうございます。
航空会社の仕事	航空会社の中にもいろんな職があるとわかっておもしろかったです。	特定地上職に興味がありました。興味深いお話をしていただきありがとうございます。
留学と海外への就職	一年が、歳をとるほど短く感じる理由に感動しました。	一年が、歳をとるほど短く感じる理由に感動しました。
企業研究者の仕事	理系のことがよくわかったこと	なんか視野が狭くなった感じがありました。しかし価値のことがわかりました
企業研究者の仕事	理系の大切さがとてもよくわかりました。	グラフなどを交えてお話しして下さったので、とてもわかりやすく理解することができました。
留学と海外への就職	英語の勉強方法、先輩の人生、ジョブズのスピーチ	人生が成功している方のお話はとても参考になりました。自分も今の成績ではまだまだですが、留学/海外で活躍したいと強く思いました。
医師・医学研究者の仕事	医師は忙しくて、お金持ちのイメージがあつたので、その偏見がなくなった。それとともに、医者不足問題について深く考えたいと思った。	ありがとうございます!
翻訳の仕事	わかりやすかったです	楽しくお話ししていらしゃることが伝わってきました。自分も好きなことを職業にしたいと思いました。
留学と海外への就職	留学のよさがわかった。海外就職に興味があった。	お忙しい中本当にありがとうございます。私は留学したいと思っていたのですが、この講習を聞いてさらにその気持ちが強まりました。それと今までは日本で、日本の企業に就職できれば良いと思っていましたが海外就職にも興味がありました。ありがとうございます。
医師・医学研究者の仕事	知りたい内容を的確に話していた	とても分かりやすく良かったです。ありがとうございます。
医師・医学研究者の仕事	進路について詳しくお話しして下さり、とても参考になりました。	とても為になり、すごく楽しい講義でしたが、最後までできなくて残念でした(。_。)
出版社の仕事	話をささみながら説明してくれたところ。	国語力をもっと付けなければ、と思いました。
出版社の仕事	仕事で注意すべき点などわかりやすかった。	それほど好きかということはないけど、編集したりする仕事は思っていたよりやりがいがある良さそうだった。
中学校教師の仕事	話が非常に面白くて聞いていて興味がわいた	教師の仕事の様子や大変なことを聞いて良かった。自分の夢への意識が高まった。
小売業におけるマーケティングの仕事	CMを見たり表にまとまっていたりと、スクリーンを使ってわかりやすく説明して下さったのではじめて聞いた話でしたが、理解することができました。みんなで実際に商品売る工夫を考えられたのも良かったです。	商品も売るのにも工夫が必要で、いろいろデータを調べて分析していることがわかりました。それを知ってより一層、マーケティングに興味を持ちました。固定概念にとらわれないことは難しそうだけど、いろいろな可能性もあるしぜひやってみようと思いました。マーケティングについてこんなに詳しく聞ける機会もなかなかないのでお話を聞いて良かったです。ありがとうございます。
中学校教師の仕事	教師になつたきっかけ、嬉しいこと、大変なこと、モットーなど、とてもためになるお話を聞いて感動しました。	私は教師になりたいと漠然と思っていましたが、今回のお話を聞いてやっぱり教師っていいなと思いました。自分も頑張ろうと思いました。

●【5.更なる高みを目指そう  
～「特別セミナー」と「土曜セミナー」  
・・・新しい試み】

「竹早高校生の多様な感性・発達段階に応じ、更に肌理細かくダイナミックな取り組みができないか」、「モチベーションの観点から高校生の学びと社会の活動をさ

らに深く掘り下げられないか」そんな Issue・問題意識から、完全選択による土曜セミナーが試みられました。竹早高校・父母と教師の会・簗会のさらなる特別な努力は、土曜セミナーに結実しました。これからどう発展させるか、活かしていくかについては、様々可能性があります。

**第5回 簗会 特別セミナー**  
2012年7月17日(火) 5-6時限目

5時限目	6時限目
● 職員の仕事 増巻監訳者	● 職員の仕事 増巻監訳者
● 航空会社の仕事 航空会社勤務	● 航空会社の仕事 航空会社勤務
● ゲームのの仕事 広告会社勤務	● 中国関係の仕事 JETRO勤務
● 中学校教師の仕事 東京都 中学校副校長	● 中学校教師の仕事 東京都 中学校副校長
● 税理士・会計士の仕事 税理士/米屋公認会計士	● 留学と海外への就職 異文化コミュニケーション
● 出版社の仕事～本を出す仕事 出版社勤務	● 医師/医学研究者の仕事 国立センター研究開発部長
● 音楽家の仕事～夢を追い続けて… 音楽家	● 出版社の仕事～本を出す仕事 出版社勤務
● 女性研究者・技術者の仕事～女子学生の場合 大手化学・分析インフラメーカー	● 企業研究者の仕事～企画・開発・販売 ヘルスケア機器開発 開発部長 開発部長
● 治療家の仕事(美容エステ/鍼灸師) 鍼灸治療家・エステディレクター	● 小売業におけるマーケティングの仕事 大手小売アパレル
● 芸術の仕事・キャリアとは ～陶芸家の仕事 陶芸家	

**簗会土曜セミナー**  
講師は皆さん竹早高校の卒業生で 現在第一線で活躍されている方々です

**第1回 6月16日(土)** ①12:50~14:50 IF大会議室 ②14:50~16:50 音響室

①「理系分野って何だ?」  
～「高校・大学・社会人の「学び」のつながり(理系編)」  
高校の学びが社会人の仕事とどのように関係しているのか、何が立っているのか/理系・理系分野の第一線で活躍するOBが語る「仕事」と「思考」とは?

②「好きな事にチャレンジする人生は素晴らしい!」  
～「クラシック音楽と仕事」  
クラシック音楽家の仕事の世界と、その魅力とは? チュービアゴット等によるプロの生演奏に当たるチャンスも!

**第2回 7月14日(土)** ①12:50~14:50 IF大会議室 ②14:50~16:50 IF大会議室

①「会社の仕事、経営の視点を学ぼう」  
経営学の専門家、私立大学教授が 竹早生向けに企業経営を伝授! ボードゲームを使って楽しく学びます

②「文系分野って何だ?」  
～「高校・大学・社会人の「学び」のつながり(文系編)」  
「生きる力」を見つめ、学びのつながりに光を当ててセッション 一見つながりの無いように思える社会人と高校の学びは、一体どのようにつながっているのか「社会人」が語っているのか

●【6.今後の課題は】

竹早高校総務部との連携がかなり進んできましたが、進路指導部との協力は今後の課題です。セミナーの位置づけ見直しにも関わってくると思います。また、実施学年を変える案もでています。更に、生徒が準備作業から参加することができれば、活動も一層、受身的ではなく「価値」あるものとして定着するでしょう。

●【7.外部からの見学・表敬訪問対応】

最後に、2012年は特別セミナーへの外部からの関心が高まった年でもありました。東京都PTA 連合会の役員あるいは役職経験者の方々のご訪問を受けました。竹早高校の同窓会の特別セミナーは、都立高校の中でも、大いに注目されているそうです。キャリアを考えるためにOBセミナーをしている学校は何校かあります。

『講師の方々の熱い語り、生徒目線に立った企画の数々、この5年間の中で、学校の意識を変え、生徒に合わせた形を模索されてきたことを感じました。これまでいくつかの高校でキャリア教育の講師や企画をやる機会がありましたが、本日見せて頂いたことで、新たな可能性を考えるきっかけとなりました。ありがとうございました。』『講座の質の高さに長いご苦勞、試行錯誤があったこと、見事な軌跡のお話を伺い感動しました。父母と教師の会と同窓会のお互いの立ち位置を尊重したスタンスが今日の形に結晶したのですね。とても学ばせていただきました。』など、見学の方々からは、話し手・事務局にとって励みになるエールを送っていただきました。

副会長&特別セミナー事務局 古関恵一 高校29回生(簗77回生)



ぜひ体験してみてください(2012年4月オープン済)

# 篁会「Web同窓会システム」

～時代をさかのぼりあの日に会える～

## キーワードで“つながる”過去と未来

### 知らなかったことや

同じ会社の先輩に  
卒業生がいたん  
だ・・・

勤務先で検索すれば・・・  
大先輩や、後輩が  
同じ会社かも・・・

これなら勤務先同窓会  
支部結成も



### 〇〇県在住の卒業生って どのぐらいいるんだろ・・・

県支部会の人数  
が減っちゃって・・・  
事務局に相談するの  
も大変だし・・・



### 東北在住の卒業生を 応援したいんだけど

現住所で検索すれば・・・  
絞り込みで年代もしば  
れば、2期上の先輩や  
2期下の後輩まで

これならいろいろな  
やり方で応援する方が  
ありそうだ・・・



住所で検索すれば現住所  
(公開承認の方のみ)が  
確認できます。  
さらに絞り込みで卒業年  
も追加すれば同級生も

せっかくの支部会だから  
なんとか続けていきたい  
検索をうまく活用しましょう



### 検索ヒント

会員検索画面で絞り込み検索(クロス検索)が可能です。

例えば、

元号：卒業年(例：昭和38高)を入れ、クラス：A

と検索すれば、同級生(同じクラス)を表示することができます。

さらに絞り込みで不明にチェックを入れることで**不明者**のみを表示することができます。

項目ごとに**公開・非公開**を設けております。

会員以外には閲覧はできません。セキュリティ対策も万全なうえ、アクセス管理も行っております。

ご安心してお使いください。



同じ地区に住む同級生

# 学校の活動報告



箠会の皆様には竹早高校の教育活動のために、常日頃から多くのご支援・ご尽力を賜り、生徒及び教職員一同、深く感謝しております。

平成24年度は箠会特別セミナーに先立ち、土曜セミナーを実施していただきました。生徒の参加人数は少なかったものの、講師の方からじっくりとお話を伺い、視野を広げることができました。竹早祭でのお休み処「たかむら」では美味しいコーヒーを入れていただき、ありがとうございました。また、3年生徒2名が箠会教育奨学金をいただき、勉学に励んでおります。

「災害発生時、自分の命を守り、身近な人を助け、避難所の運営など地域に貢献できる人間を育成すること」を趣旨として、全ての都立高校（全日制）で宿泊を伴う防災訓練を実施することになりました。本校では9月末に関係機関の協力を得て充実し

た訓練を実施することができました。

大学合格状況は表1のとおり、国公立・難関私立大学の合格者数を伸ばしております。都教委から進学指導推進校に指定され、生徒・保護者・教職員の意識が高まった結果と考えております。

学校説明会等への来校者数は表2、入試の実質倍率は表3のとおりです。平成25年度の推薦入試から個人面接のほかにも全都立高校で集団討論が導入され、前年度までとは異なる形での実施となりました。また、本校の募集は例年より、1クラス増となりました。

今後とも、良き伝統を踏まえた竹早高校の教育活動をさらに発展させるために、引き続きご尽力いただきたく、お願い申し上げます。

## 平成24年度 年間行事 ( ) は日付

- 4月 始業式 (6)、入学式 (9)、対面式 (10)、1・2年課題テスト (10) 2・3年保護者会 (14)、健康診断 (18)、生徒総会 (23) 校外学習 (24) \*1、土曜講習 (25~) \*2
- 5月 体育祭 (9)、父母と教師の会総会 (12)、竹早塾 (19~) \*3 中間考査 (29~6/1)
- 6月 3年進路ガイダンス (4)、授業公開・保護者会 (9)、箠会土曜セミナー (16)、2年進路ガイダンス (18)
- 7月 期末考査 (3~6)、3年入試説明会 (9)、1・2年模擬試験 (9)、箠会土曜セミナー (14)、箠会特別セミナー (17)、終業式 (20)、夏期講習 (23~)、部活動夏季合宿 (22~) \*4、学校見学会 (27~)
- 8月 夏期講習 (~30)、部活動夏季合宿 (~7) \*4、学校見学会 (~24)
- 9月 始業式 (3)、3年推薦・センター試験説明会 (3)、1・2年課題テスト (3)、竹の子祭 (15,16)、竹早祭 (17,18)、1年宿泊を伴う防災訓練 (28,29)
- 10月 授業公開・学校説明会 (6)、中間考査 (23~26)、国際理解講演会 (29)
- 11月 1・2年模擬試験 (6)、開校記念日 (7)、体験入学・学校説明会 (10)
- 12月 期末考査 (6~11)、終業式 (25)
- 1月 始業式 (8)、1・2年課題テスト (9)、2年修学旅行 (10~12)、推薦入試 (27,28)、1・2年模擬試験 (29)
- 2月 合唱コンクール (18)、1・2年保護者のための進路講座 (16)、学力検査 (23)
- 3月 卒業式 (2)、学年末考査 (6~11)、1年芸術鑑賞 (14)、1・2年進路講演会 (19)、2年合格体験講演会 (21)、修了式 (25)

### \*1 校外学習

1年：鎌倉 2年：羽田空港・横浜 3年：東京ディズニーリゾート

### \*2 土曜講習 予備校講師による大学受験に向けた英語・数学の講習

前期 (4~7月)、後期 (10月~3月) 各10回実施

### \*3 竹早塾

父母と教師の会と卒業生が連携した考査前の生徒の学習支援

5/19, 26, 6/23, 30, 10/13, 20, 11/24, 12/1, 3/3の全9回実施

### \*4 夏季合宿 参加者：15部、270名

陸上競技、サッカー、軟式野球、男女バスケットボール、男女バレーボール、男女硬式テニス、ソフトテニス、バドミントン、吹奏楽、美術、天文、箏曲

表1 大学合格状況

国公立大学	国公立大学			私立大学	私立大学		
	H24	H23	H22		H24	H23	H22
北海道	1		1	青山学院	23	16	14
東北	1			学習院	15	14	18
筑波	2	2	1	慶応義塾	10	5	7
埼玉	7	3	4	国際基督教		2	
千葉	4	3	3	駒沢	6	3	13
お茶の水女子		2		上智	13	11	9
電気通信		1	1	成蹊	8	18	8
東京医科歯科	1			成城	10	2	3
東京外語	2	2		専修	7	10	11
東京海洋	1	1		中央	17	15	17
東京学芸	3	2	1	津田塾	1		2
東京藝術		1	1	東京家政	2	2	6
東京工業	1	1		東京女子			2
東京農工	2	1		東京農業	5	20	4
横浜		1		東京理科	23	28	15
信州	1	2		東洋	39	37	27
静岡		1		日本	29	26	36
名古屋			1	日本女子	3	6	8
京都	1			法政	38	48	39
福島県立医科			1	武蔵	9	23	4
埼玉県立		1		明治	43	38	51
首都大学東京	4	4	4	明治学院	19	23	15
横浜市立	1			立教	48	30	27
都留文科		1	1	早稲田	39	26	23
静岡県立		1	1	その他	※	113	117
京都府立			1	合計	407	516	476
その他			1				
合計	32	30	22				

数値は現浪のべ合格者数である。

※H24年度はH25.3.29現在の数値であり、私立大学その他は計上していない。

H24年度卒業生は7クラス(他は6クラス)

表3 入試状況(実質倍率)

		H25	H24	H23
帰国		1.00	1.21	1.00
推薦	男子	2.67	2.39	3.52
	女子	4.20	5.05	6.67
一般	男子	1.39	1.37	1.57
	女子	1.60	1.69	1.96
募集(クラス数)		7	6	6

表2 来校状況

	H24	H23	H22
学校見学会	1,330 (11回)	1,365 (11回)	1,359 (9回)
竹早祭	4,129	3,509	3,838
学校説明会	1,090	933	1,055

# 在校生の活躍紹介

## 演劇部

部長 齋藤 美寿々

私たち演劇部では、部員を表舞台に出る役者と、演出・照明・音響などの裏という大きく二つに分けて役割を決め、それぞれが協力し合って、一つの作品を作っています。

作品を作るにあたって大切にしているものは、観ている人の心に届くような脚本を書くこと。そして、それをいかに魅力的に見せるかという演出の力、さらにそれを伝える演技力の三つです。それらを考える際、意識していることは、登場人物たちの自然な心の変化をどれだけうまく伝えられるかです。

竹早高校演劇部にいるほとんどの人は、素人です。皆舞台について知らないで、最初は戸惑います。しかし、日々の活動で、先輩方から様々なことを学び、吸収します。それは、発声の仕方であるとか、演技に対する姿勢などです。そういった練習を通して、感性を磨いていきます。すると、自然に今まで気付かなかった、日々の何気ない出来事に目を向けるようになり、それを上手く芝居において表現できるように意識し始めます。つまり、普段の生活が、表現の向上につながるのです。そういった成長を経て、自分を登場人物たちに投影させて、流れや気持ちを掴んでいきます。そうして部員全員で意見を出し合い、切磋琢磨しあって、舞台を完成させていくのです。

私は、自分たちも楽しみながら、お互いを高めあっている姿をみるのが好きです。演劇をやっていて良かったと思います。

仲間と、成功させたいという同じ志を持って一所懸命に取り組む…その努力が実を結び、今回、地区の演劇発表会において「奨励賞」という名誉ある賞をいただけたのだと思います。このような形で私たちの活動を認めてもらえたことをとても嬉しく思います。これからも皆さんに楽しんでいただけるよう、日々頑張っていきたいと思います。皆さん、ぜひ“魅せられてください。”



## 陸上競技部

部長 藤澤 匠

陸上競技部は1年生6人、2年生9人の15人で日々練習に励んでいます。外壁工事の影響で今まで使っていた練習場所が使用不可となってしまう練習場所に悩まされていますが、短距離・中長距離・フィールドの3つのブロックに分かれ、お互い指摘し合いながらできる限りの練習をしています。また定期的に競技場で単独練習や合同練習を行うことで、技術面・体力面だけでなく人間的にも成長できるよう活動しています。

主な活動内容は走ったり、跳んだり、投げたりと、とても単純なものです。単純なものだけに奥深いのが陸上競技です。そして、陸上をやっていく上で、一番の魅力と言えばやはり自分の記録が伸びていく事です。ベストタイムが出たり、飛距離が伸びたりと様々ですが、どんな形にしる自分が今まで目指してきた1秒、1cmを更新することで、次の新たな目標が見つかり、またひとつレベルアップできるというのはとてもやりがいがあります。

さらに年間を通し、部の目標として「全員都大会出場」を設定しています。シーズン中、都大会に進める試合はそう何度もありません。そこで、常にどんな状態、状況でも「全員都大会出場」を心がければ、自己ベスト、優勝、上位入賞といった成績を取めることができるのではないかと考え、設定しました。また、試合に出場している選手だけでなく、出場できない選手、ケガを負っている選手、マネージャーもこの目標を心がけることで最高のサポートや応援をすることができ、部全体の雰囲気向上につながると考え、この目標を設定しました。1人1人が自立しつつも、集団にも関心が持てる、そんな集団としても強い部活を目指してきた結果、今年は都大会にも多数出場し、男子棒高跳びでは関東大会出場を果たしました。しかしまだ都大会では十分に戦えていないのが現状です。部員1人1人が貪欲になって上を見据えることによって都大会出場はおのずと達成できるものになってくると思います。

これからも応援してくださる人たちに感謝の気持ちを持ち続けながら活動していきたいと思っています。



# なつかしの先生



## 「青春の出会い」

國廣（高橋）クニ子先生  
国語科（昭和29年～31年）

私は終戦の翌年、栃木市から上京し東京女高師（東京女子高等師範学校：今のお茶の水女子大学）に入学、そのあと東京大学国文学科を卒業、お茶の水の助手をしていた時、竹早高校の水町校長からお招き戴いて本校の教諭となりました。24才の時です。

私の教えたクラスは、屋上に新設された二つの教室で、“天国”と仇名で言われていました。初めての男女共学のクラスです。私も生徒も年があまり変わらず、ヤンチャで笑ったりふざけたりし合いながらの授業でした。後の大俳優、緒方拳さんがいて、私のことを“ジャジャ馬”と野次ったのをおぼえています。

同僚の先生方も、個性の強い面白い方ばかりで、職員室はいつも活気にあふれていました。文化祭の時、先生方だけで劇をやりました。私はお婆さんの役、後に私の夫とな

った國廣功はヤクザの役をやりました。

この人とは同い年で、殆ど同時に赴任してきたのですが、一目見た時から気が合い、二年後に結婚しました。その為に私は都立南葛飾高校に転任したのですが、何しろ夫が長く竹早において戴きましたから、毎日竹早の噂をじかに聞き、長く竹早にいたような気がします。國廣は軟式野球部の顧問で、部員の皆さんは、毎年正月二日になると、御家族づれで新年宴会に来て下さいました。ずい分にごやかでした。チジちゃん達も活発にはしゃぎ廻りましたね。そのお子様方も今では立派な社会人です。國廣もお墓の下で、見守っていてくれることでしょう。

竹早の卒業生の方々は、今でも毎年國廣の命日にお墓参りに行って下さったり、私のことも気にかけて下さり、本当にありがたく思っております。

# 竹早エコー



## 「私の竹早」

佐藤 利博 高校22回生（筈70回生）

私が在籍したのは1967年4月から1970年3月です。我々は学校群1期生で、私は第3学区(練馬区)から、第4学区へ越境しました。小石川高校の方が32群より通学が大変近く魅力的でした。私は入学するまで、竹早高校の存在すら知らず、入学したら、運動場は狭く、校舎は古く、学芸大附属中学生との共用だった事に驚きました。大変な高校へ入ってしまった、のが第1印象でした。場所が文京区なので、毎朝満員電車に乗せられて通学するのは、かなり辛く、入学して間もなく学校へ行くのが否になったのを思い出します。ただ女子が男子の2倍の人数がいるのは、新鮮な驚きでした。体育の授業は、度々2時限続きで、文京区小石川運動場まで往復ランニングで移動し授業をしました。私の卒業した中学は、運動場は広く、校舎周辺は当時、畑か空地なので、竹早の運動場にはかなりの不便を感じました。

1、2年時の授業は、大学受験を意識した内容で、夏休みは必ず2週間の補習授業が組まれ、先生たちは、竹早開校以来の最高学府へ合格者を出すという大義のもと、気合の入った授業をしていたと記憶しています。このまま卒業まで何も

なくいけたら、受験に関しては、どんなに良かったか。私はよく遅刻をしたものでした。3年になって、受験を強く意識し始めたあの日も、やはり遅刻をしたのですが、B組の教室へ後ろ扉から入ろうと開けたら、教室はモヌケの殻、隣のA組も同様でした。すでに講堂で、3年生の全体集会が始まっていました。この日を境に正規の授業は卒業まで開かれる事はありませんでした。我々は、竹早高校の特殊な事情を背景に、学園紛争に突入し、2年生は、1年後、生徒権宣言へと突き進みました。3年の二学期に、校舎の建て替えの為、旧新宿高校校舎へ仮住まい、そこで私の高校生活は一変し、毎日朝から新宿駅周辺の散策、新宿御苑の散策（当時は境の塀に穴があり、出入り自由）と楽しい時間を過ごした思い出が蘇ります。御苑の紅葉が始まる頃、校舎はバリケード封鎖され、出入りがままならず、私は受験勉強を始めましたが、当然受験は失敗しました。

私にとっての高校生活は常に人生に刺激を与え続け、外資系の会社へ転職後も、社内の外人に対し、物怖じせず話が出来た礎を育んだ3年間だったのかもしれない。



いのり

## 「小野政吉先生からノンちゃんへ」

金子 光雄 高校 16 回生 (筈 64 回生)

60歳を数年後に控えたある年、同期会が企画され、卒業後初めて出席。

40年ぶりの再会に気後れしながら行ってみると、意外に思い出し、思い出してくれる人もいて、懐かしい時間を過ごすことができるものでした。

高校時代、絵を志すようになり、毎日小野先生のいる美術室に通って、他の学年の授業中などお構いなしに指導を受けていたのですが、これって異常なこと？特別なことだったのだと、今になってみると思えるのは私がとても鈍感な人のせいかと……

その後、私は美術教師になり、絵画制作も続けて美術団体にも所属。そんな関係で小野政吉先生には卒業後もお世話になっていて、数多くされた個展・東光会の展覧会など精力的な活動を見せてもらったり、お話を聞いたりすることができていました。私の個展やグループ展などにも小野先生はおいでくださったものです。そして「色に力がない。絵具を混ぜないように！」と言われたのを思い出します。何せ小野先生の絵は強烈な色で迫力満点でしたから。

小野先生の長寿を祝う会では百人を優に超える人々

が出席していて、先生の影響を受けて育った人がいかに多くいたかということに自分もその一人でありながら驚きました。そして反骨の人であったことをはじめて知りました。

そうそう同期会でパッと思い出せる女性に会いました。

ノンちゃん。小野政吉先生を知らずに竹早高校を卒業した人。小学一年の時、担任の先生に「なんだ！この絵は！」と言われ、絵が描けなくなった人です。やはり同期のK子さんと三人で、スケッチに出かけてみるとノンちゃんは結構絵が巧いのです。先生の一言が人に及ぼす影響は怖いものだとつくづく思いました。それから三人のスケッチ会が始まりました。そのうち私の仲間が入ってきたり、ノンちゃんが知り合いを連れて来たりで、いつの間にか30人を超えています。月二回、毎回10数人が集まるのですから、面白いものです。

ノンちゃんはとても熱心で時々すごい傑作を描きます。私は年一回の個展を中心に、最近ではフレスコ画に凝っています。



## 「私の原点」

岩根 千静 高校 64 回生 (筈 112 回生)

私は今、竹早高校を卒業し、大学に通っています。大学生になっても、竹早で過ごした高校生活を思い出すことがよくあり、懐かしさに浸っています。自分達が最高学年となり、毎日楽しみながら、時に悩みながら後輩を引っばった体育祭のパフォ連。衣装から台本から全て一からスタートで、苦労が多かったけれども大成功した文化祭の劇。四日間天気が悪かったけれど、そんなことも忘れて楽しめた初めての宿泊行事の修学旅行。お昼に食べていた美味しかった購売のパン屋さん。部活帰りに毎日のように通っていたミニストップ。どれも色鮮やかに私の記憶に残っています。

こんな風に充実した高校生活を送れたのには、竹早生の「やるときはやる」という姿勢、そこにあると思います。行事をめいっぱい楽しんだ後は、しっかりと切り替え授業、部活に取り組む。この姿勢を生徒会の人達や先生が、浸透させられるようにいつも動いて下さっていたし、何より生徒一人一人が自覚していたと思います。楽しむことだけで終わらないのが、この学校の良さだと感じていました。

三年間で培ったこの精神は、大学生活でも大いに役

立っています。大学生になると高校の時よりも更に行動範囲が広まったり、またアルバイトをしている人がほとんどで、自分で使える金額というのも変わってきました。自分の身の周りには、楽しそうな事や誘惑、やりたい事などがあふれる程あり、毎日がめまぐるしく過ぎて行くそんな大学生活です。そこでも「やる時はやる」事を大事にし、勉強する時はしっかりと集中してする、遊ぶ時は思いっきり遊ぶ、とけじめをつけながら生活しているつもりです。そのおかげで私の大学生活は高校時代におとらないくらい日々楽しく、そして充実しています。また、竹早で出会った友達や先生達も私の生活を明るくしてくれています。今でも連絡を取り合ってお飯を食べに行ける友達がいたり、卒業してからも竹早に足を運び、会いに行きたい先生達がいることは、私の人生にとって大きな財産であり、ずっと大切にしていきたい人達です。

竹早で学んだ精神、そしてかけがえのない人たちとの出会いは私の一生の宝ものであり、これらが竹早に入学して一番良かった事だと胸を張って言えることです。これからも自分の中でこれらを心に留めながら、将来に向かって前進して行きたいと思います。



## 「我が水泳部」

上村 法三 高校 22 回生 (筮 70 回生)

1967 年 4 月入学式当日、校門に入ってヒマラヤ杉の向い側にブロック塀に囲まれた不思議な空間があることに気がついた。塀の隙間から中を覗くとそこにはプールがあった。当時私は高校ではサッカーをやろうと心に決めていたのであるが、新入生向けのクラブ紹介で「泳げなくても大歓迎」という甘い一言につられてしまい、同じクラスの渡辺(日)君を誘って水泳部に入ることとなった。

水泳部は、スポーツ科学、とりわけ水泳の泳法研究で著名であった宮下教授(東大)のご令弟により設立されたものと聞き、最先端の水泳理論のもと一流選手になれると期待に胸を膨らませていた。しかし実体は、何代も前の OB の逸話で明らかになった。「バタフライを泳げ」「泳ぎ方が解りません」「テレビで見たことがあるだろ」「…」

3 年生の男子部員は 1 人もいなかったが、これは対抗試合で気のないレース態度を咎められ、「やる気が無いなら辞めてしまえ」との叱責に、全員が本当に退部してしまったことによる。この苦い経験により、我々 1 年

生は水泳部存続を担う世代としてそれはもう大切に扱われたのである。25m プールはとても古く、コンクリートはざらざらと荒れ、なにより問題なのは片側が腰までの水深しかなく、回転ターンなどをやろうものなら思いっきり背中を擦りむくという有様。加えて 1 週間おきの中学生との共同使用で、設備/練習環境共に劣悪であったが、上級生や OB の方々の熱心な指導のおかげで、まがりなりにも「競泳」を修得出来たと今でもとても感謝している。

2 年生になると、上級生の引退で現役男子部員が 2 名になってしまい、リレーが組めないという大問題が起きた。そこで、水泳の授業で飛び抜けてキックが早かった同級生の榎本君を強引に勧誘し、下級生と合わせてようやく 4 名を確保した。女子は層も厚くレベルも高かったが、男子はあらゆる面で苦戦していた。先日、他校の水泳部の知人と話す機会があったが、「竹早はとても弱かったね」と言われてしまった。返す言葉が見つからず、45 年も前の事とはいえ悔しくて仕方がない。

叶わない事だが、もう一度あの時代に戻って、今度こそ最先端の水泳理論のもとで泳ぎたいと思うのである。



## 「高校時代」

江沢 総 高校 22 回生 (筮 70 回生)

高校時代はすでに 40 年以上前ですが、振り返ってみますといろいろなことが思い出されます。書き出せば切りがないくらい出てきますが、そのうちのいくつかを次に述べます。

### 1. 高校合格発表

私は東京都の学校群制度が導入された最初の年に高校受験をしました。竹早高校は小石川高校と同じ群であり、当時は小石川高校がいちばんいい学校でした。合格発表を見に行ったとき当然のことながら最初に小石川高校のほうへ見に行き、そこに自分の受験番号がなくがっかりし、念のため竹早高校のほうに見にいきそこに自分の番号を見つけた時は、がっかりしながらも安堵したことを今でも覚えています。たぶん、竹早に入った男子は同じような思いをした人が多かったのではないのでしょうか。

### 2. 都電での通学

都電は今では 1 路線しかなく、懐かしいものになってしまいましたが、当時はたくさんの都電が走っていました(最盛期は 41 系統あったようです)。私は池袋から高校の門前の停留所「春日二丁目」まで利用していました。なぜかその時の定期券が 1 枚手元にあり、大事にしています(昭和 44 年 4 月の日付 1 カ月 480 円)。

### 3. 構内での麻雀

皆さんは、当時の竹早高校には屋上のようなところに教室がひとつあったことを覚えていますか。そこはあまり人目につかない場所だったので、放課後その部屋で麻雀をやっていました。今から思えば、ずいぶん大胆なことをやっていました。

### 4. 高校 3 年で新宿高校へ居候

高校 3 年の時に校舎の建替えをすることになり、新宿高校に居候しました。その当時は学園紛争が盛んで高校へも飛び火し、構内にバリケードが築かれ、授業ができない状況になりました。私は学園紛争のほうには興味がなかったので朝、学校へ顔を出した後はパチンコをやったり、麻雀をやったりして勉強はほとんどやっていませんでした。新宿高校は新宿御苑の隣にあり高校の塀を乗り越えれば新宿御苑に入れたのでたまにひと越え。また、当時は今ほど食べられていなかったと思うのですが、高校のそばにあった豚骨ラーメンの店(桂花: 熊本ラーメンの店)にたまたま入って初めて食べた味、最初はなんだこれはと一緒にいった同級生の誰かと(残念ながら誰と入ったかは覚えていません)慣れない味に苦戦しながら食べたこと。パチンコ屋の隣にあった数人しか入れない 100 円の天井屋。

まだまだ書きたいことはたくさんありますが、この辺で筆を置きます。



## 「竹早高校時代の部活の思い出」

五味 博美 高校 31 回生 (筮 79 回生)

早いもので高校卒業から約 35 年。勉学も学校行事もなんとなく流していた私ですが、楽しかったこともつらかったことも高校時代の全てはこの卓球部に集約されると言っても過言ではありません。

当時の体育館は暗幕もなく他の部活と半面ずつ使用していたばかりか、練習時間も満足に確保できない状態でした。しかし、そんな環境にあってもなぜか練習後の私達は若い体力を使い果たしていたのです。それは、OBの先輩方による鬼のハードトレーニングによるものでした。階段ダッシュ、空気イスなど限られた竹早高校のスペースを余すところなく活用したスペシャルメニュー。今では誰もやらないようなトレーニングに疲れ果て、当然練習後の私達は文句たらたら。今でも同期会の話の筆頭はあのトレーニングです。そして、毎年行われる山中湖での夏合宿はその集大成。中でもメインイベントは山中湖一周マラソン。毎日たっぷり練習メニューが組まれ体力的にかなりきつい合宿でしたが、そのマラソンにはドクターストップがかかった私を除き全員が完走。これも日頃の先輩方が鍛えて下さ

ったおかげだったのかもしれませんが。今にして思えば、お忙しい(?)中にもかかわらず毎回の様に体育館に足を運び、生意気盛りの私たち現役を指導することは実は大変なことで、今では先輩コーチ陣に感謝の気持ちでいっぱいです。

そんな中でも練習後の楽しみといえば、もっぱら正門前の「フジモリパン屋さん」でアイスを食べ、茗荷谷駅に向かう途中のお米屋さんで「ブラッシー」を飲み、近所に住んでいた同期の子のマンションでおしゃべりすることでした。今からするとなんと牧歌的な高校生活だったことでしょう。

去年の 10 月 20 日、当時の卓球部顧問だった晴山先生をお招きして盛大な大 OB・OG 会が開催され、現役時代に合宿や練習にいらして下さった懐かしい先輩方ともお話しする機会が持てました。卓球はお世辞にも上手くなかった私ですが、大学時代でも体育会に所属し、4 年間続けることができたのもこの竹早高校時代の経験があったからだと思っています。素晴らしい仲間との出会いを与えてくれた竹早高校に感謝しつつ筆を置かせて頂きます。



## 「竹早；わがこの高校」

圖師 修一 高校 26 回生 (筮 74 回生)

昭和 46 年 3 月、廃止寸前の都電を「春日二丁目」で降り立ち、入試合格発表に安堵の胸をなでおろしながらも、出身中学校の男子では唯一人竹早に振り分けられた(当時は学校群制でした)ことに戸惑っていました。入学してみると、いきなり生徒会の勇壮なオリエンテーション。生徒手帳の見開きには生徒権宣言。動乱の様子を見聞きし、戸惑いが倍加する思いでした。が、ヒマラヤ杉に新芽が萌えた頃には、生徒総会は度々行われていたものの、平穏を取り戻した教室で、フジモリ校内販売の菓子パンを昼休み前に齧りながら竹早生を気取っていました。

当時、日本も高度成長期から変っていく時期でした。都電が消え、巢鴨までだった都営地下鉄が大手町に延伸。労使紛争が激化し、数日にわたり公共交通機関がストライキで完全に止まり、板橋の自宅から自転車で登下校したこともあり。第 1 次石油危機、為替の変動相場制への移行等々、世の中はめまぐるしく動いていました。

校内は女子生徒が多かったこともあり、弾む声に全

体が華やいでいました。竹早を偵察にきた小石川の友人が羨むことしきりでしたが、男女とも私服の上に実験用白衣を羽織っている(当時流行っており、私もお煮しめのような色になったものを着用していました)生徒の多いことに首を傾げていました。

八ヶ岳での移動ホームルームで大宴会をやってしまい担任の先生から、もっと「竹早生としての品位」を保つべきであるとお叱りを受けたこともあり。竹早祭の準備のため、無許可(理由は失念しました)で級友達と美術室に籠っていたことが問題となり出展停止処分になりかけたり、珈琲「白樺」(茗台中の向かいにありました)に屯していたら生徒指導の先生が見回りに来られたり、とヒヤヒヤした思い出も次々に浮かんできます。

10 代の多感な時期に竹早で、諸先生の薫陶を受け、クラブ活動(卓球部に所属していました)でお世話になった先輩方や多くの友人に囲まれて、のびのびと思い出深い 3 年間を過ごしました。真実一路だったかは自信がありませんが、あの頃に学び、考え、悩んだことが、今の自分の原点になっているような気がしています。

# 清里高原 竹早山荘から

財団法人**竹早会**は

一般財団法人 **フォレストアークス清里**へ生まれ変わります

公益法人制度の認可制を廃止する抜本改革が平成 20 年 12 月スタートし、平成 25 年 11 月までに移行申請しないと現財団（財団法人竹早会）は解散となります。

これに伴い当財団の解散を視野に検討をいたしました。恩賜林（竹早山荘のある地域）の返還時には、建物を取り壊し更地にする賃貸契約が有り、解体に多額の費用がかかり、その費用の捻出が問題だったこと、築50年を過ぎた建物なのに、建物本体にヒビが入っていない頑丈な構造物であり、風の通りぬける「吉村順三」氏設計の建物ファンも多く、施設の存続を希望する声が多かったため、新公益法人制度の「一般財団法人」として新たに運営を継続することにしました。

**フォレストアークス清里**として内閣総理府に移行申請中

財団の名前は変わりますがその運営は、子育て世代の皆さんを中心とした新たな体制で、施設の維持と活動の継承をバトンタッチすることになりました。今後も自然との関わりを大切にしたい新規事業も考えておりますので、ご期待ください。

**フォレストアークス清里**はこんなところです

- ・自然の中で大人も子どもも、ほんとうに元気になる！
- ・私たちは自然の循環の中で生かされているという事を知る！
- ・人々が自由に集うことのできる自由空間の大切さを実感！
- ・樹木の有難さ！ 森の有難さ！ 自然の多様性に驚嘆！
- ・命育む森の心地よさに、懐かしい場所
- ・実家に帰ったような・・・落ち着く場所



自由空間 = **フォレストアークス清里** = 森の架け橋

移り変わる四季の森・自然林でリフレッシュ



お陰様で・・・

理事長 岩田隆子

お陰様で 52 年！ 今日まで竹早山荘は吉村順三設計のセミナーハウスとして皆さんに愛されてきました。この歴史の中で、その時代の折々に高校関係者・同窓会さらに活動に協賛して下さった多くの皆様の暖かいご支援で受け継がれてきた施設だと改めて感謝しております。

管轄官庁の指導の下「自然の中で自ら学ぶ人々の研修施設」として再生して、前理事長没後、私が理事長の職に就き早いもので 26 年が過ぎました。

力不足ながら、今日まで大過なく過ごすことができたのは折々に活動に協賛して下さった多くの皆様・並びに、ご利用者様の温かいご支援の賜物です。有志の皆様は賛助会員になって頂き施設の維持・整備することができましたことを、この場をお借りして心よりお礼申し上げます。

今後とも一層のご利用、合わせてご支援の程よろしくお願い申し上げます。

# 平成 24 年度「篁会総会・懇親会」報告



平成 24 年度の篁会の総会及び講演会・懇親会は、6 月 17 日（日）に神保町の学士会館にて開催されました。当日は小雨模様の中、当番幹事の 22 回生が出席者の誘導に当たり、無事に 11 時の定時での開会を迎えました。

出席は来賓を含め総勢 96 名でした。テレビのドラマにも使用された会場は終始、楽しげな雰囲気に包まれていました。



## 【総会】

高校 23 回生の中村副会長を議長に選任し、新任理事及び退任理事承認、平成 23 年度事業報告、決算報告、監査報告が行われました。引き続き、平成 24 年度事業計画案、予算案の趣旨説明が行われ承認されました。



## 【講演会】

高校 22 回生の橋本和夫氏の紹介で講師の後藤和夫氏（テレビ朝日ニュースステーション・プロデューサー）による多メディア時代に於けるテレビ報道の信頼性・あり方に関して制作現場の実情を解説して頂きました。



## 【懇親会】

来賓を代表して、竹早高校の丹藤校長から竹早高校の特色として“先輩から学ぶ”～キャリア教育を重視、応援してほしい旨の御挨拶を頂きました。

城戸崎愛、星野昌子両氏の乾杯発声で懇親会は始まりました。理事による T シャツ販売も行われ、その後松本会長から永年に亘り篁会を支えて下さった方々を表彰し感謝の気持ちをお伝え致しました。

最後に、高女と高校の校歌を斉唱。次年度当番の 23 回生から来年の総会の告知が行われ、今年の当番幹事を代表し猪狩和子氏の閉会の辞で楽しい会もお開きとなりました。



## 「お休み処たかむら」

今回準備した飲料は、

- 1 帝国ホテル仕様のPBコーヒー
- 2 おーいお茶
- 3 爽健美茶
- 4 なっちゃん
- 5 ポカリスエット

の5種類だったのですが、なっちゃんの人気は若人には相変わらずの一番人気でした。年齢層に拘わらない人気を保ったのは、PBコーヒーです。これは、わざと教室の扉を解放して、仄かなコーヒーの香りを廊下に漂わせ、集客に努力した賜物と言えます。現に、「コーヒーの良い香りに誘われて来ました。」と言って来て下さったお客様が何人もいらしたので、これは「次回からも使えるな」と内心ニヤリとした次第です。

この「おやすみ処」の雰囲気と心地よさに時間を忘れ、ついつい長居を決め込んだ在校生のグループがテーブルを独占するケースが何度か見受けられました。その為、失礼の無いように席を譲って貰う事もありました。一時はテーブルの満席状態が暫く続いて、廊下でお待ち頂く様な事態になったからです。これも嬉しい誤算と言えるかもしれません。

二日間にわたり、甘いもの、辛い物、お菓子も大好評でした。



Tシャツ販売（純益の全額が、教育資金に寄付される）については、理事たちの「押し売り？」の成果があったようです。

「お休み処」に参加の理事達に、感想を聞きました。

- \* 一日中立っているのはちょっと辛かったけど、それはいかに普段ごろごろしているかの、いい反省材料でした。
- \* 高校生や中学生その他、若人をたっぷり見るのは結構楽しかったですよ。もし来年も行うなら、ちょっとお茶飲みに皆来てくれるといいですね。
- \* 一部の生徒の固まりが長時間占拠する光景に会ったのを、こちらから、皆に席を譲ってと言うと素直に聞いてくれました。楽しかったです。
- \* 協力して下さる理事の顔ぶれが毎年限られてしまうのはちょっと寂しいですね。持ち回りとはいかないまでも、出来るだけ多くの理事に経験して頂きたいと思うのは私だけでしょうか？
- \* 来場者には大変喜ばれて、箕会のPRにはなりますが、運営側は結構きついです。そろそろ考える時期に来たと感じています。

参加理事全員のアンケート調査もしてみたら如何かと思えます。ご存知のように「おやすみ処」はコーヒーもジュースも何杯飲んでも無料です。利用者のコメントを見ると、「無料が良い」と答えた方々は全体の僅か5%強に過ぎません。1人100円でも頂ければ、経費の半分近くを回収出来る事実を検討するべきではないでしょうか？ そうしないと、今後「おやすみ処」そのものの存続が危うい状況になりつつあると危惧するのですが。

松丸 直樹 高校21回生（箕69回生）

## アンケートの回収結果

2日間で539通のアンケートが集まりました。一部をご紹介します。励ましの内容は本当に嬉しいです。ちょっと、ツブイテみました。

サーブがステキでした。対応もていねいで見習おうと思えます。	そんなに褒められると、ちょっと照れますね。でも嬉しいです。	涼しくて気持ちの良いコーヒーの香りに誘われて休憩に来ました。息子も卒業したら箕会に入ってこの良き伝統をついでほしいものです。	おー、両手を広げてお待ちしています。	はしゃぎにはしゃぎ、疲れていた所で、皆さんの優さに触れて癒されました。	どうぞゆっくりなさって。お代りも出来ますのよ。
すごくおいしくいただきました。お母さん方もとても親切で若々しく元気をもらいました！	中ほどのお言葉、もう一度おっしゃって!! 疲れが吹っ飛びますわ〜。	正直、ドコの出し物よりもココが一番好きですよー。	このアンケート、内緒にしておきましょうね。だって、他の方が読んだら、ジェラシーを感じちゃうかも……	何時も明るくして下さい、楽しみにしております。孫達3人お世話になりました。またお世話になることでしょうか、大切に。	まあ、私達と同窓のお孫さんが、お三人もいらっしゃるのですか。そして、もしかしたら、更に今後、入学されるということ？ステキ!
とても有難いです。ありがとうございます。将来此処のお手伝いしたいと思いました。	平均年齢がぐっと下がります。真新しいエプロンを用意してお待ちしています。	無料はステキです。OB・OGの方が今もかかわるのは楽しいですね。	テーブルセッティング、お菓子・飲み物、笑顔、接待、片付け、掃除、アンケート集計。理事はなかなか忙しい。But、楽しいから続けられるのです。	50年ぶりに訪れた母校。建物は変わりましたが、なつかしいです。	大先輩がアンケートにご記入下さり、感激です。在校生とのふれあいをお楽しみください。
コアラのマーチが食べたいです。	Sorry,来年度、準備します。。。。	おじさまが面白かった!	僕(おじさん)は楽しかった〜〜and嬉しかった〜〜	100円位でも(募金箱)寄付させていただいてもよろしいですよ。	待ってました!!このご意見〜〜カッコイイ募金箱を用意します!
					「たかむら」って誰ですか？
					宣伝不足ですみません。同窓会の名前です。今年の3月で113年目です。

## 箆会教育基金の奨学生決まる

なぜ今、奨学生なのでしょう。

「次の世代に昔からの伝統を継承し教育にも資する」ということは価値があると多くの方がおっしゃいます。実際、同窓会での次世代への継承は、「学校の力」の土台の一角となるかもしれません。

しかしながら、今、現役の竹早高校生が卒業生となり、箆会の活動に興味を持っていただく、ということは、簡単なようでいて実はとても難しいことです。これは大げさでなく大変です。なぜなら、現役の高校生にとって卒業生は、理解しにくかったり、非常に遠い存在だったりするからです。

今、ひとつの試みが箆会特別セミナーであり、また、ひとつが新しく発足した奨学生制度ということが出来ます。いずれも、箆会会員からの現役生へのエールであり、また架け橋となる活動です。奨学生の方にはぜひ、今後とも竹早の現役生と箆会の会員を結ぶキューピッドになっていただけたらと思います。

### 教育基金奨学生制度の発足のようす

2012年、学校との協力で奨学生制度が発足しました。箆会は規定・応募書類などを2011年に整備し生徒の応募を待ち受ける準備をしましたが、結果として実現には1年を要しました。学校は奨学生の応募の問いかけから選考に至るまでさまざまな協力をしていただきました。父母と教師の会には、さまざまに精神的な支援をいただきました。

記念すべき第1回の認証式は、学校・箆会・父母と教師の会の方々のご出席の下で7月13日に行いました。本年度の奨学生は3年E組の床枝佑里子さん、山本千夏さんの2名です。奨学金の授与を併せて行いました。奨学金がお二人にとって充実した高校生活の一助になりますことをこころから祈念しております。

教育基金奨学生事務局 古関恵一 高校29回生(箆77回生)



## 『箆』 回覧板

<開催しました>

### ●15 回生同期会

2012年11月17日(土) 上野精養軒で7回目の同期会を開催しました。卒寿を迎えた織戸先生ほか51名が集まり、間もなく卒業後50年、2年後はいよいよ古希を迎えるということで時の流れを感じさせられた一日でした。近況報告は返信はがきを名簿にまとめ整理して配布しました。東日本大震災復興支援ソング「花は咲く」を全員で熱唱し、もつれる足で懐かしのフォークダンスを踊ったりして3時間は瞬く間に過ぎました。あいにくの強い雨にもかかわらず、上野駅近くの居酒屋での二次会へと続き、懐かしい高校の昔話から老いてますます盛んなそれぞれの生活の話へと時間の許す限り語り合いました。次回(2014年11月)も元気に再会を願いつつ散会しました。

土田 善則

### ●昭和45年卒同期会

同期会は、2012年12月1日に、高校生活をスタートさせた300人のうち、今回は61人が集まりました。場所は3年生の時、取壊し予定の旧校舎に1年間仮住まいし、さまざまな思い出のある新宿高校に近い新宿ライオン会館です。

還暦を過ぎて、4年ぶりに集まると、常連の顔が一人二人と見られなくなる一方、憧れのマドンナが教職を勤め終えて初めて顔を見せてくれたりもして、思うことの多い2時間余りでした。

次回は2年半後ということにしました。互いに元気な顔を見せ合えるだけでも有難く思える年齢になり、今回を上回る出席者で集まりたいと願っています。

発地 弘光

### ●23 回生同期会

60歳を迎えた私たち23回生は、2012年11月3日に盛大な還暦記念学年会を開催、今回は芝公園にあるプリンスパークタワー東京の豪華な会場に105名の仲間が集まり、大森先生と土屋先生にもお越しいただきました。私達の学年会は、参加者が心ゆくまで語り合えるように一次会と二次会を同じ会場で続けて開催します。今回は更に三次会も同じホテルで開催し、夕方3時から夜8時半まで時の経つのも忘れて旧交を温め合いました。1996年に卒業25周年を記念して第1回学年会を開き、当初は5年ごとに再会することを約束していましたが、今や5年という間隔を待ち遠しく感じる年齢になり2006年からは隔年ごとに学年会を開いています。かけがえのない友人たちとの楽しい再会の場をこれからも大切にしてくださいと思います。

水田 茂夫



# 第6回篁寿会開催



2012年10月6日(土) 「学士会館」にて



ことのほか暑さの続いた今年の夏、おまけに次々と日本列島を襲った台風は、多大な被害を各地にもたらしました。その合い間をぬって、秋の気配を感じさせる青空と陽光もうらかな10月6日、本会は開催されました。



正午に松本会長の挨拶でスタート。お話では各種行事が行われる中、とりわけ第二高女の記念碑が校内入口のモニュメントの隣りにでき、3月20日に除幕式が行われたことが報告されました。またそういう篁会の行事を支えるため、また今後の記念碑の維持のため篁寿会メンバーの方々に、寄付をお願いしたい旨を熱く語り、星野昌子さんと彌永珪子さんが募金箱を持って会場をまわって、総額で95,500円も集まりました。ついでに司会から篁会の会計報告、今後の用途等に関して説明がありました。



続いて、楽しい懇親会、食事タイム。乾杯の音頭は最年長の関ともさんが欠席のため、急遽増田民子さんに執っていただきました。



しばらく歓談ののち、篁会110周年の感謝状が松本会長から手渡されました。会長、副会長を務められた方、会費をたくさん納めて会の活動に協力して下さった方、篁寿会を立ち上げるに当たりお力添え下さった幹事の方々がその対象となりました。



いよいよお楽しみ抽選会。賞品の中には前川富士子さんが、3.11震災の被災地のメーカーから取り寄せたふかひれスープ、西村章子さんからいただいたポーチ2つが加えられています。そして全員に持ち帰り用として、篁会監査の高倉孝生氏が勤務しているライオン(株)から台所洗剤「泡の力」、盛田良子さんから豆腐に合う醤油がプレゼントされました。抽選は受付時に配られた番号札の数字に該当する賞品が手渡されるという形で行われ、デジタルフォトフレーム、キャリーカート等その中味が発表されると小さな歓声が各テーブルから湧き起こりました。



そして、各テーブルごとの集合写真撮影後、松本会長のピアノ伴奏に合わせ、第二高女校歌を全員で斉唱、美声を競い合いました。約3時間にわたっての篁寿会もいよいよ大詰め、星野元会長が閉会の辞を述べられ、質実剛健を建学の精神とし、文武両道の成立を目指してきた心身ともに今なおたくましく乙女(?)たちの集いは、来年の再会を約束し合って、お開きとなりました。



※参加者63名 幹事6名 司会：佐藤美紗子 高校16回生(篁64回生)

## 次回 第7回篁寿会

2013年9月21日(土) 会場は同じく「学士会館」です。詳しくは会報同封のご案内(ピンク色の封筒に入っています)をご覧ください。たくさんの方々のご出席をお待ちしております。

## 星野昌子さんが旭日小綬章を受章



篁会の元会長で、篁寿会の世話人でもある星野昌子さん 高校2回生(篁50回生)が昨年の文化の日の叙勲で、長年のボランティアの功績に対して、旭日小綬章をお受けになりました。

1965年に青年海外協力隊の初代メンバーとしてラオスに派遣され、その後タイで難民支援の活動など国際ボランティアのパイオニアとして活躍していらっしゃいました。

つらいこともあったそうです。絶望はものごとをどんどん悪い方へと引き寄せるが、それでも何かをつかめば人はやり直しができると信じ、毎日希望にあふれていた頃のご自分を思い出して立ち上がったそうです。そんな先輩のことばに勇気づけられました。いつまでもお元気でご活躍ください。

# 関西箏会だより

島崎 良一 高校 18 回生 ( 箏 66 回生 )

今年 は 猛暑 から 厳冬 と 気候 の 変動 が 大き い で す が、皆 様 お 変 わ り な い で し ょ う か ?

平 素 か ら 関 西 箏 会 の 活 動 へ の ご 理 解、ご 協 力 を い た だ き 厚 く お 礼 申 し 上 げ ま す。

平 成 24 年 度 の 総 会 は 11 月 18 日 ( 日 ) に 大 阪 駅 の ホ テ ル グ ラ ン ヴ ィ ア 大 阪 で 開 催 さ れ ま し た。ほ ぼ、完 成 に 近 づ い た J R 大 阪 駅 北 側 の 再 開 発 地 区 を 眼 下 に 望 み、遠 く 北 摂 の 山 々 が 見 え る 部 屋 で し た。

例 年 は 15 ~ 20 名 の 出 席 者 で 推 移 し て き ま し た 出 席 者 が 今 年 は 11 名 と 激 減 し 幹 事 以 外 の ご 出 席 が 4 名 と い う 寂 し さ で し た。し か し な が ら 高 女 出 身 の 先 輩 方 の 学 校 生 活、青 春 の 思 い 出 を 興 味 深 く お 聞 き し、ま た、全 員 の 近 況 を お 伺 い し、予 定 の 2 時 間 が あ っ と い う 間 に 過 ぎ て し ま い ま し た。

関 西 箏 会 は 近 年 総 会 の 出 席 者 が 減 少 し、ま た 会 報 の 原 稿 募 集 に も 苦 労 し て い ま す。そ の た め 今 年 は 会 や 会 報 の あ り 方 に つ い て アン ケ ー ト 調 査 を 実 施 し ま し た。詳 細 は 解 析 中 で す が 大 ま か に は 存 続 を 望 む 方 が 多 そ う で す。ま

た 高 校 16 回 以 降 の 若 年 層 ( ? ) の 回 答 率 が 少 な い 傾 向 で し た。来 年 の 総 会 で は こ れ ら の 結 果 に 基 づ い て 会 の 将 来 に つ い て 考 え て 行 く 予 定 で す。

平 成 25 年 度 の 関 西 箏 会 総 会 は 催 し 物 の 多 い 10 月、11 月 の 土 曜、日 曜 を 避 け 9 月 11 日 水 曜 日 に 同 じ く ホ テ ル グ ラ ン ヴ ィ ア 大 阪 で 開 催 の 予 定 で す。関 西 圏 の 皆 さ ん は も ち ろ ん 全 国 各 地 か ら の 多 く の 方 々 の 参 加 を お 待 ち い た し て お り ま す。最 後 に 箏 会 の 一 層 の ご 発 展 を お 祈 り い た し ま す。



平成二十四年度 関西箏会 総会 於・ホテル・グランヴィア大阪

# 湘南箏会だより

影本 昌則 高校 6 回生 ( 箏 54 回生 )

平 成 24 年 5 月 16 日 ( 水 ) に 総 会 と 懇 親 会 を、例 年 通 り 鎌 倉 市 七 里 ヶ 浜 の 「 鎌 倉 プ リ ン ス ホ テ ル 」 で 行 っ た。冒 頭、幹 事 の 影 本 が、当 会 の 元 会 長 で あ ら れ た 松 本 紀 子 様 が 本 部 の 会 長 に 就 任 さ れ た こ と へ の 祝 辞 を 述 べ、当 会 と し て 従 来 に も 増 し て 本 部 に 協 力 す る 旨 を 誓 っ た。松 本 会 長 か ら は、今 年 度 の 「 箏 会 」 の 行 事 に つ い て の ご 報 告 の 中 で、箏 会 110 周 年 記 念 事 業 と し て 母 校 で 行 わ れ た 「 府 立 第 二 高 等 女 学 校 記 念 碑 」 の 除 幕 式 の 模 様 に つ い て の お 話 が あ り、次 い で 田 村 幹 事 ( 高 校 7 回 生 ) が 会 計 と 会 員 異 動 の 報 告 を し て 総 会 は 終 了 し た。

懇 親 会 は、山 廣 俊 雄 君 ( 高 校 7 回 生 ) の 乾 杯 で 始 め ら れ た。会 食 後、弥 永 圭 子 様 ( 高 校 3 回 生 ) が、「中 医 薬 膳 に よ る 夏 の 食 養 生」とい う テ ー マ で の 講 話 を さ れ た。「中 医 学」とは 中 国 伝 統 医 学 の 事、ま た 「 薬 膳 」 と は 中 医 学 理 論 に 基 づ い て 作 ら れ る 食 事 と の 事、そ し て 「 薬 膳 」 の 基 本 的 な 考 え 方、特 に 長 夏 ( 梅 雨 も 含 め た 夏 ) に 良 い 食 材 と そ の 医 学 上 の 効 果 に つ い て 種 々 ご 説 明 い た だ い た。今 回 初 参 加 の 河 野 か づ 子 様 ( 高 女 41 回 生 ) は、高 女 の 修 学 旅 行 で 大 戦 直 前 に も 拘 ら ず 朝 鮮 半 島 に ま で 行 か れ た 際 の 思 い 出 話 を 語 ら れ た。次 に、川 村 太 枝 子 様 ( 高 校 14

回 生 ) の ヴ ァ イ オ リ ン 演 奏 が あ り、「タ イ ス の 瞑 想 曲」、「シ ュ ー マ ン の ト ロ イ メ ラ イ」を 弾 い て い た だ き、皆 そ の 美 し い 音 色 に 聴 き 入 っ た。最 後 に 村 上 幹 事 ( 高 校 8 回 生 ) に よ る 閉 会 の 辞 で お 開 き と な っ た。

な お、「平 成 25 年 度 の 総 会 ・ 懇 親 会 」は 次 の 通 り で す。地 域 外 か ら の 参 加 大 歓 迎 で す。

日 時 : 平 成 25 年 5 月 15 日 ( 水 ) 12 : 00 ~ 14 : 00  
場 所 : 鎌 倉 プ リ ン ス ホ テ ル



# 理事会報告

平成24年度の理事会活動は以下のとおりです。

## 【理事会】

●5月22日 第1回理事会 出席者12名 委任状2名

### 1) 承認事項

- ・ホームページリニューアルについて
- ・篁会情報管理規程及び個人情報取組に関する考え方
- ・110周年企画、感謝状配布対象者及び規程
- ・年度未会計の規程
- ・新理事承認の件・青山俊也氏（篁77回生）
- ・今年度特別セミナー、土曜セミナーの概要

### 2) 報告事項

- ・今年度総会、懇親会の進捗状況
- ・教育基金、奨学生選考の進捗状況
- ・府立第二高女記念碑関係資料ファイルを作成、高校資料室に保管
- ・城戸崎愛さん料理教室についての提案

●10月22日 第2回理事会 出席者11名 委任状4名

### 1) 承認事項

- ・新理事承認の件・今井大弥太氏（高校22回生）松澤由利子氏（高校22回生）
- ・今年度総会・懇親会の総括及び収支
- ・次回総会日時・会場について
- ・次年度会報委員の選出・今井大弥太氏（高校22回生）会報委員長に決定
- ・理事の役割分担
- ・アドバイザー選考について

### 2) 報告事項

- ・特別セミナー、土曜セミナーの実施状況
- ・教育基金奨学金授与
- ・竹早祭「お休み処」実施
- ・篁寿会実施
- ・資料室の整理・整頓

●1月19日 第3回理事会 出席者12名 委任状4名

### 1) 承認事項

- ・平成24年度収支予算及び途中経過
- ・平成25年度予算（案）次回理事会で最終承認
- ・平成25年度活動計画（案）次回理事会で最終承認
- ・新卒業生の篁会加入（お知らせとお願い）
- ・古い会員名簿等、機密文書処理費用
- ・教育基金の使途

### 2) 報告事項

- ・次年度会報の進捗状況

●3月23日 第4回理事会 出席者12名 委任状7名

### 1) 承認事項

- ・理事承認の件・吉岡新氏（高校21回生）
- ・平成24年度収支報告
- ・平成25年度収支予算（案）
- ・平成25年度活動計画（案）
- ・ホームページのメンテナンスについて

### 2) 報告事項

- ・次年度会報の進捗状況
- ・学校運営連絡協議委員及び防災教育推進委員について
- ・110周年事業Tシャツの販売について

## <その他>

- \*4月7日 竹早高校入学式に参列
- \*6月16日、7月14日 竹早高校にて篁会土曜セミナー各2講座開催
- \*7月17日 竹早高校にて篁会特別セミナー19講座開催
- \*9月16、17日 竹早祭に「おやすみ処たかむら」を出店
- \*10月6日 篁寿会開催 於：学士会館
- \*1月19日 篁会新年会を竹早高校、父母と教師の会合同で実施
- \*3月2日 竹早高校卒業式に参列
- \*3月23日 会計監査実施

## 篁会 平成24年度収支予算および途中経過報告 平成24年4月1日より平成25年3月31日まで

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
前年繰越金	17,191,753	総会開催関係費	801,186
入会金：新入会員	2,208,000	贈呈記念品費	590,882
年会費	2,692,100	会報発行費	2,299,264
総会費	782,000	会議費	50,030
雑収入	4,250	通信費	22,098
諸事業収入1(篁寿会費)	510,000	送料	17,090
諸事業収入2(Tシャツ売上)	135,473	旅費交通費	660
受取利息	1,706	事務用品、消耗品費	113,442
周年事業基金より振替	10,000	教育援助金	100,000
教育基金より振替	340,000	奨学金	240,000
寄付1(記念碑用)(*1)	177,500	慶弔費	0
寄付2(教育基金用)(*2)	100,000	諸事業経費(*5)	1,140,396
教育基金へ振替(*3)	-235,473	HP運営費(*6)	862,890
高女記念碑基金へ振替	-177,500	手数料	2,240
		雑費	12,558
		予備費	
小計	23,739,809	小計	6,252,736
周年事業基金	1,628,994	次年度繰越金	17,489,076
教育基金	1,795,473	周年事業基金	1,628,994
高女記念碑基金(*4)	177,500	教育基金	1,795,473
小計	3,601,967	高女記念碑基金	177,500
合計	27,341,776	小計	21,089,040
		合計	27,341,776

- \*1: 篁寿会にて募金95,500、および高校4回生紫竹会から同期会積立残金182,000のうち82,000を計上
- \*2: 紫竹会より100,000
- \*3: 諸事業収入2と寄付2
- \*4: 寄付1は高女記念碑のメンテナンス費用という目的の寄付なので用途を明確にするため新たに項目を設けました。

### \*5

事業内容	金額
学年幹事連絡会	72,750
竹早祭企画	79,651
篁寿会	603,913
篁特別セミナー	375,802
お料理教室	8,280
諸事業経費合計	1,140,396

### \*6: HP運営費を独立させました

事業内容	金額
ドメイン維持費	4,200
システム導入初期費用	341,250
年間保守料	504,000
Jimdoサーバ使用料	13,440
WebSystemサーバ使用料(古山氏提供)	0
名簿データ管理費	0
HP運営費合計	862,890

期末の現金預貯金等の残高	金額
現金	355,753
預貯金	
ゆうちょ銀行 通常貯金	3,877,627
ゆうちょ銀行 定額貯金	7,000,000
ゆうちょ銀行 振替口座	4,818,260
みずほ銀行 普通預金	5,037,400
合計	21,089,040

## 篁会 平成25年度収支予算（案）平成25年4月1日より平成26年3月31日まで

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
前年繰越金*	21,089,040	総会開催関係費	1,300,000
入会金：新入会員	1,800,000	贈呈記念品費	500,000
年会費	2,800,000	会報発行費	2,300,000
総会費	1,000,000	名簿及びHP運営保守	770,000
雑収入	0	会議費	40,000
諸事業収入(篁寿会費)	500,000	通信費	20,000
受取利息	2,000	送料	10,000
寄付	30,000	旅費交通費	30,000
		事務用品、消耗品費	50,000
		教育援助金	100,000
		奨学金	240,000
		慶弔費	20,000
		諸事業経費	1,150,000
		手数料	3,000
		予備費	200,000
		次年度繰越金*	20,488,040
合計	27,221,040	合計	27,221,040

\*上記繰越金には下記が含まれています。

周年事業基金	1,628,994	周年事業基金	1,628,994
教育基金	1,795,473	教育基金	1,455,473
高女記念碑基金	177,500	高女記念碑基金	177,500
合計	3,601,967	合計	3,261,967

### 事業内容検討案

事業内容	金額	事業内容	金額
学年幹事連絡会関連	100,000	篁寿会	600,000
竹早祭出店企画	100,000	篁会特別セミナー	350,000
諸事業経費合計			1,150,000

## お知らせ

### ●年会費納入のお願い

いつもご協力ありがとうございます。年会費の複数口受け付けがはじまり、おかげさまで予算を上回る増収となりました。これからも同窓生相互の交流、親睦を深めるため、さらに母校及び現役生に貢献するためにも、篁会会計の充実を図りたく、会員の皆様のいっそうのご協力を宜しくお願い申し上げます。

### 【年会費は複数口受け付けます】

同封の郵便振込用紙をご利用ください。

- ・年会費 1口 1,000円 1口以上
- ・総会参加費 8,000円 (参加の方のみ)

### ●「篁〇〇回生」について

会報のなかに、(篁〇〇回生)と記載されていますが、これは1901年の第一回卒業生が(篁1回生) = (高女1回生)、1971年卒業の高校23回生は(篁71回生)、2013年の卒業生は(篁113回生) = (高校65回生)という様になります。会員同士の卒業年数の差異がすぐわかり、会報や総会等で用いています。

### ●篁会総会幹事学年について

篁会総会は毎年6月に都内で開催されます。

今年は1971年卒(高校23回生、篁71回生)の皆様が幹事学年となります。一生に一度の幹事学年ですので、お誘い合わせのうえご出席ください。

また、来年幹事学年となる1972年卒(高校24回生、篁72回生)の皆様も是非ご出席ください。なつかしい仲間と久し振りに語り合ひましょう。

### ●ご意見・ご希望は

会報は同窓生みんなのものです。本誌へのご意見・ご希望を同封のハガキ(総会出欠用)等で「会報委員会」までお寄せください。

また、住所等が変わられた方は、「名簿委員会」までお知らせください。ご自分で篁会ホームページで変更することもできます。

〒112-0002 文京区小石川4-2-1

東京都立竹早高校内「篁会」

篁会連絡用電話 090-8853-1901 [takamurakai@gmail.com](mailto:takamurakai@gmail.com)

## 篁会役員名簿<平成25年4月現在>

会 長	松本 紀子 (高女41回生)	理 事	小田 みどり (高校20回生)
名誉会長	丹藤 浩 (竹早高校校長)	〃	岩野 英子 (高校20回生)
顧問	星野 昌子 (高校2回生)	〃	松丸 直樹 (高校21回生)
〃	磯貝 恵三 (高校7回生)	〃	小野 由紀子 (高校21回生)
副会長	榎本 毅 (高校16回生)	〃	林 義昭 (高校21回生)
〃	中村 光宏 (高校23回生)	〃	今井 大弥太 (高校22回生)
〃	古関 恵一 (高校29回生)	〃	松澤 由利子 (高校22回生)
理 事	山内 亨 (高校14回生)	〃	水田 茂夫 (高校23回生)
〃	古山 浩之助 (高校16回生)	〃	青山 俊也 (高校29回生)
〃	松島 美弓 (高校17回生)	〃	鹿住 倫世 (高校34回生)
〃	森 多恵子 (高校18回生)	〃	平川 悟 (高校52回生)
〃	香川 洋子 (高校20回生)	監 査	村上 伸一 (高校14回生)
〃	池上 美知子 (高校20回生)	〃	高倉 孝生 (高校23回生)

## 謹んでご冥福をお祈り申し上げます

### 高女・専攻科

篁24回	高女24回	1924	大13女	緑川	きみ	(比田)	2004.12.
篁31回	高女31回	1931	昭6女	甲 西岡	みき	(杉山)	2012.3.30
篁32回	高女32回	1932	昭7女	乙 杉原	照子	(松野)	2012.6.18
篁32回	高女32回	1932	昭7女	甲 篠田	ムツ	(山澤)	2012.3.6
篁33回	高女33回	1933	昭8女	乙 溝口	知子		2011.8.
篁36回	高女36回	1936	昭11女	紅 辻	美代子	(浜田)	2004.4.
篁38回	高女38回	1938	昭13女	紅 野田	千代子	(執行)	2012.8.11
篁40回	高女40回	1940	昭15女	紅 市村	西都子	(田島)	2005.8.
篁40回	高女40回	1940	昭15女	白 並木	英子	(塩谷)	2012.2.22
篁40回	高女40回	1940	昭15女	白 小崎	秋子	(東)	2012.1.25
篁41回	高女41回	1941	昭16女	官沢	多美	(北代)	2012.10.25
篁45回	高女45回	1945	昭20女⑤	千葉	禮子	(岩間)	2006.4.
篁48回	高女48回	1948	昭23女	安田	恭枝	(鳥居)	2012.8.24
篁48回	高女48回	1948	昭23女	薩田	悦子	(井上)	2012.3.30

### 高校

篁50回	高校2回	1950	昭25高	有賀	敏子	(耕田)	2004.6.
篁54回	高校6回	1954	昭29高	B 土井	純子	(丸山)	2012.2.21
篁59回	高校11回	1959	昭34高	C 橋	サカエ		2003.7.
篁59回	高校11回	1959	昭34高	A 丸山	絃子	(松田)	2003.11.
篁62回	高校14回	1962	昭37高	D 大谷	渥子	(細川)	2010.11.
篁62回	高校14回	1962	昭37高	F 新木	葵	(鈴木)	2012.10.16
篁63回	高校15回	1963	昭38高	B 小口	芳江	(花岡)	2012.4.
篁70回	高校22回	1970	昭45高	A 山本	大吉		2008.4.
篁70回	高校22回	1970	昭45高	A 北岸	吉夫		2011.11.18
篁70回	高校22回	1970	昭45高	A 竹中	彰夫		2010.4.21

(敬称略)

\* Web 同窓会システムでも確認できます。

\* 平成25年3月31日までにご連絡いただいたものです。

## 編集後記

会報の発行に向けて準備中に、2012年度の日本の貿易赤字が6兆9,273億円、過去最大の赤字、32年ぶりに赤字幅更新のニュースが流れました。私の世代が、社会人になってからは、ほぼ一貫して貿易黒字が続き、バブルを経験し、経済が右肩上がりだったことを懐かしく思いながらこのニュースを見ました。一方で、アルジェリアで発生したテロ事件、日本人が標的となる大変不幸な出来事でした。経済のグローバル化のうねりの中で、竹早高校卒業生も、否応なくこのうねりに巻き込まれていくことを思いながら、篁会の会報が、卒業生の“心のお休み処”になれば幸いです。(T.S)

※ 昨年の会報 P.9、福田健一氏の原稿のタイトル「思い出の美術館」は「思い出の美術室」の誤りでした。



#### 会報編集委員

委員長	今井 大弥太 (高校 22 回生)		
委員	榎本 毅 (高校 16 回生)	香川 洋子 (高校 20 回生)	
	池上 美知子 (高校 20 回生)	岩野 英子 (高校 20 回生)	
	小田 みどり (高校 20 回生)	吉岡 新 (高校 21 回生)	
	林 義昭 (高校 21 回生)	松丸 直樹 (高校 21 回生)	
	棚澤 由貴子 (高校 22 回生)	松澤 由利子 (高校 22 回生)	
	渡辺 信博 (高校 22 回生)	佐藤 利博 (高校 22 回生)	
	中村 光宏 (高校 23 回生)	奥田 和美 (高校 23 回生)	
	水田 茂夫 (高校 23 回生)	佐竹 律子 (高校 23 回生)	
	丸山 和子 (高校 23 回生)	元永 妙子 (高校 23 回生)	
	藤木 乃利子 (高校 23 回生)	原田 恵子 (高校 23 回生)	
	古関 恵一 (高校 29 回生)		

#### 簗会報

発行日 2013 年 4 月 23 日  
発行 簗会  
〒112-0002  
東京都文京区小石川 4-2-1  
東京都立竹早高等学校内  
連絡用電話 090-8853-1901  
<http://www.takamurakai.com>  
編集 簗会 会報編集委員会  
印刷 共立速記印刷株式会社  
〒102-0072  
東京都千代田区飯田橋 3-11-24